

益田市 子どもの生活状況調査
結果報告書

令和6年8月
島根県 益田市

目 次

I. 調査の概要.....	1
1 調査目的.....	1
2 調査期間.....	1
3 調査概要.....	1
4 報告書をみる際の注意.....	1
II. 中学2年生アンケート調査結果.....	2
1 回答者について.....	2
(1) 性別.....	2
2 学校の授業や勉強について.....	2
(1) 学校の授業以外での勉強.....	2
(2) 学校の授業以外での1日あたりの勉強時間.....	3
(3) クラスの中での成績.....	3
(4) 学校の授業がわからないことがあるか.....	4
(5) いつごろから授業がわからないことがあるか.....	4
3 将来の進学について.....	5
(1) 将来の進学について.....	5
(2) 将来の進学についてそう考える理由.....	6
4 地域のクラブや部活動について.....	7
(1) 地域のクラブや部活動の参加状況.....	7
(2) 地域のクラブや部活動に参加していない理由.....	7
5 食事と睡眠状況について.....	8
(1) 1週間の食事の頻度.....	8
(2) 平日(月～金)ほぼ同じ時間に寝ているか.....	8
6 悩みごとや相談先について.....	9
(1) 学校のきまりやルールに自分の意見を言う機会はあるか.....	9
(2) 相談相手.....	9
(3) だれにも相談しない理由.....	10
(4) 家庭や学校以外で悩みを相談できる場所があることを知っているか.....	10
7 最近の生活について.....	11
(1) 生活の満足度.....	11
(2) ここ半年くらいの自分のことについて.....	12
(3) 新型コロナウイルス感染症の拡大による休校前と現在での変化.....	13
8 自分の居場所について.....	14
(1) 家族との関係について.....	14
(2) 自分や友人の家または学校以外の居場所.....	15
(3) 居場所を利用したことで起きた変化.....	16
(4) 回答者の自己肯定感について.....	17
(5) 自分が「しあわせ」だと思うか.....	18

(6) 回答者にとっての居場所.....	19
(7) 自分の将来に明るい希望を持っているか.....	20
9 こどもの権利について.....	21
(1) 「児童の権利条約」を知っているか.....	21
(2) 「こども基本法」を知っているか.....	22
10 意見の伝達方法について.....	23
(1) 益田市に意見を伝えやすい方法.....	23
Ⅲ. 中学2年生保護者アンケート調査結果.....	25
1 回答者について.....	25
(1) 回答者.....	25
(2) 子どもが現在通っている中学校名.....	25
2 家族や家庭について.....	26
(1) 子どもと同居している家族.....	26
(2) 子どもの親の現在の年齢.....	27
(3) 家族の中で単身赴任中の人.....	27
(4) 子どもと同居し生計を同一にしている親の婚姻状況.....	28
(5) 離婚相手との子どもの養育費の取り決め.....	28
(6) 家庭で使用している言語.....	29
3 親について.....	30
(1) 親が卒業・終了した学校.....	30
(2) 親の就労状況.....	31
(3) 働いていない理由.....	31
4 子どもが幼い頃の保育について.....	32
(1) 子どもが0～2歳の間に通っていた施設.....	32
(2) 子どもが3～5歳の間に通っていた施設.....	32
(3) 子どもとの関わり方.....	33
(4) 行事や活動への参加頻度.....	34
5 子どもの将来の進学について.....	35
(1) 子どもの現実的な進学先.....	35
(2) 子どもの進学先の理由.....	36
6 頼れる相手について.....	37
(1) 頼れる相手はいるか.....	37
7 現在の暮らしの金銭的状况について.....	39
(1) 現在の暮らしの金銭的なゆとり.....	39
(2) 世帯全体のおおよその年間収入.....	40
(3) 過去1年間金銭的理由で必要な食料が買えないことがあったか.....	42
(4) 過去1年間金銭的理由で必要な衣服が買えないことがあったか.....	43
(5) 過去1年間経済的理由で公共料金が未払いになったことがあったか.....	44
8 最近の生活について.....	45
(1) 過去1か月間の気持ち.....	45

(2) 生活の満足度.....	46
(3) 新型コロナウイルス感染症の拡大による休校前と現在での変化.....	47
9 支援制度について.....	48
(1) 支援制度の利用状況.....	48
IV. 自由回答.....	50
1 中学2年生.....	50
(1) 益田市へ伝えたいこと.....	50
2 中学2年生保護者.....	52
(1) 子育て環境や支援に関してのご意見.....	52
V. 調査結果からみた課題.....	54
(1) 子どもの勉強と進学について.....	54
(2) 子どもの食事と睡眠状況について.....	54
(3) 子どもの悩みごとや相談先について.....	54
(4) 子どもの最近の生活について.....	55
(5) 子どもの居場所について.....	56
(6) 現在の暮らしの経済的状況について.....	56
(7) 益田市へ伝えたいことについて.....	57

I. 調査の概要

1 調査目的

本調査は、子ども基本法第10条に基づく「（仮称）益田市子ども計画」策定の基礎資料として、本市の子ども・若者及び子育て当事者の現状と課題を把握することを目的として実施しました。

2 調査期間

令和6年4月～5月

3 調査概要

	子どもの生活状況調査	
調査対象者	市内の中学2年生	市内の中学2年生の保護者
調査方法	Web アンケート	
アンケート実施方法	QRコード付ハガキを郵送	
配布数	417人	410人
回収数	76人	112人
回収率	18.2%	27.3%

4 報告書をみる際の注意

- ・図表中の「 $n=○$ 」とは、集計対象者総数（または分類別の該当対象者数）を示しています。
- ・調査結果の比率は百分率（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。また、複数回答については、合計が100%を超える場合があります。
- ・グラフに関して、主に単純集計を単数回答は帯グラフ、複数回答は棒グラフとしています。また、選択肢の多い単数回答は棒グラフとしています。また、帯グラフにおいては0.0%の表記を省略しています。複数回答の棒グラフにおいては「その他」「わからない」「特にない」などの選択肢に該当しない、あるいは具体的な内容を含まないという選択肢を除き、割合による降順となっています。なお、集計対象者総数（ n ）が10人以下の場合は、グラフ等による割合の表記はせず、表により人数を記しています。表に色が付いている場合は、横の項目でみて最も高い割合となっています。
- ・集計結果において、回答者を限定する設問などによっては該当者が少なくなり、割合が偏る、あるいは分散することがあります。そのため、集計対象者総数（全体）が10人以下の場合は、コメントしておりません。

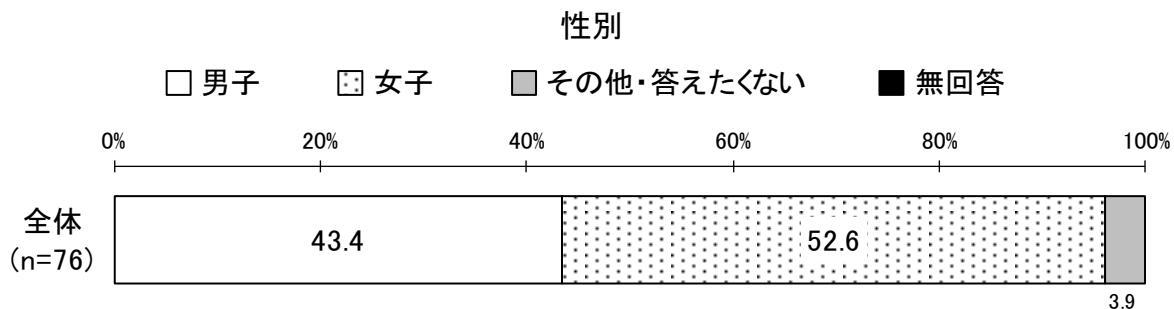
Ⅱ. 中学2年生アンケート調査結果

1 回答者について

(1) 性別

問1 あなたの性別を教えてください。（あてはまるもの1つに○）

性別については、全体では「女子」の割合が52.6%で最も高く、次いで「男子」（43.4%）、「その他・答えたくない」（3.9%）の順となっています。

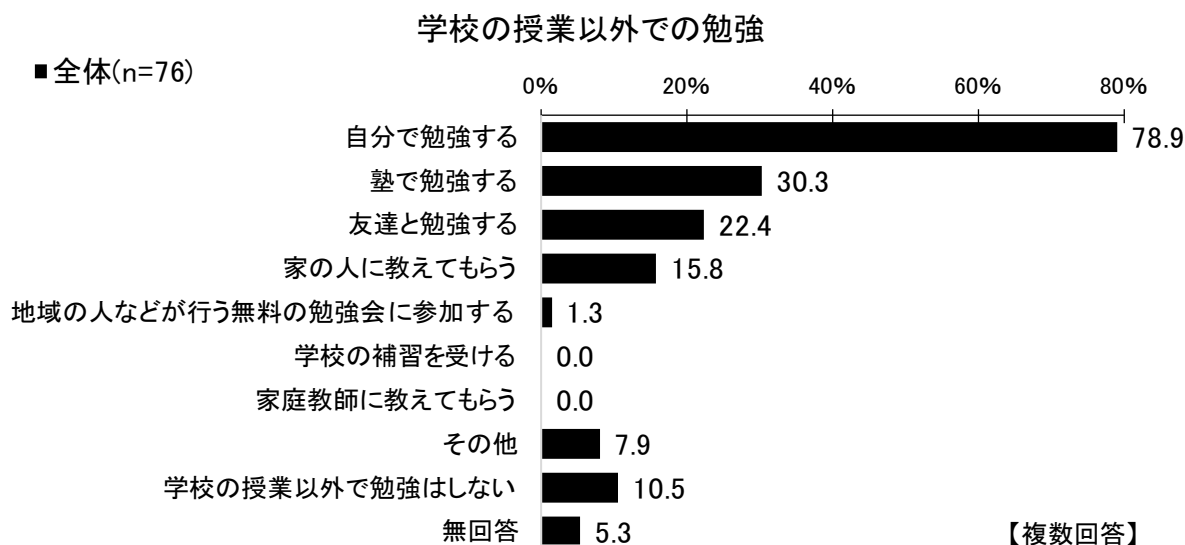


2 学校の授業や勉強について

(1) 学校の授業以外での勉強

問2 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。
※勉強には学校の宿題もふくみます。（あてはまるものすべてに○）

学校の授業以外での勉強については、全体では「自分で勉強する」の割合が78.9%で最も高く、次いで「塾で勉強する」（30.3%）、「友達と勉強する」（22.4%）などの順となっています。

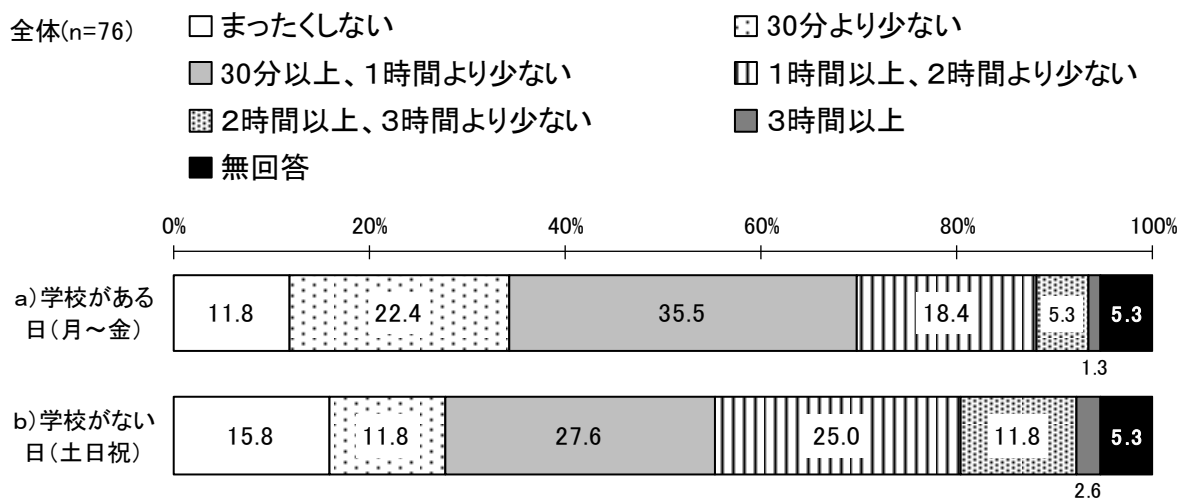


(2) 学校の授業以外での1日あたりの勉強時間

問3 あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。
※学校の宿題をする時間や、塾などでの勉強時間もふくみます。
(a、bそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

学校の授業以外での1日あたりの勉強時間については、学校がある日(月～金)では「30分以上、1時間より少ない」の割合が35.5%で最も高く、次いで「30分より少ない」(22.4%)、「1時間以上、2時間より少ない」(18.4%)などの順となっています。
学校がない日(土日祝)では「30分以上、1時間より少ない」の割合が27.6%で最も高く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」(25.0%)、「まったくしない」(15.8%)などの順となっています。

1日あたりの勉強時間

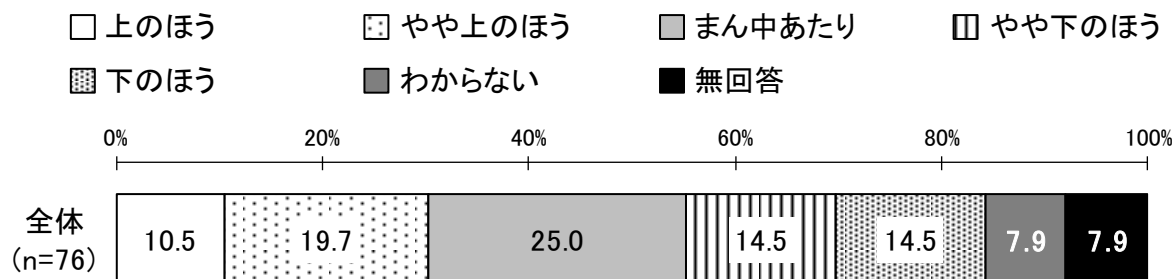


(3) クラスの中での成績

問4 あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

クラスの中での成績については、全体では「まん中あたり」の割合が25.0%で最も高く、次いで「やや上のほう」(19.7%)、「やや下のほう」「下のほう」(同率14.5%)などの順となっています。

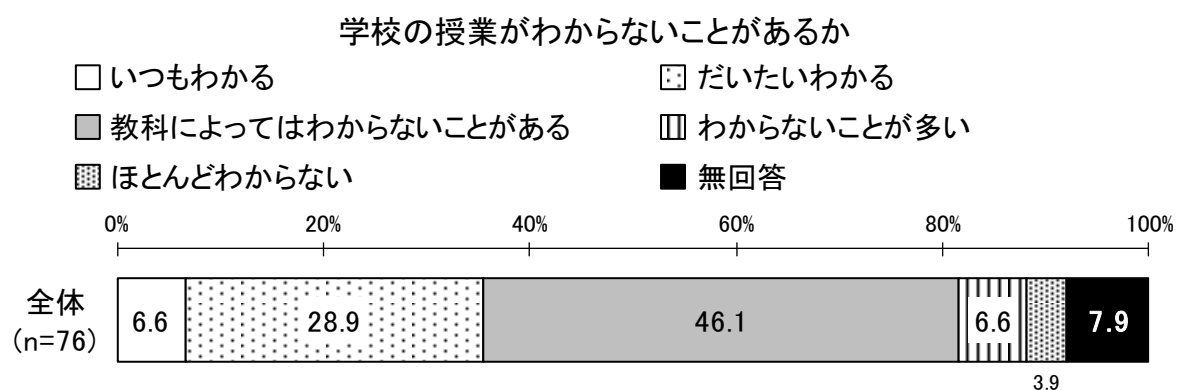
クラスの中での成績



(4) 学校の授業がわからないことがあるか

問5 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(あてはまるもの1つに○)

学校の授業がわからないことがあるかについては、全体では「教科によってはわからないことがある」の割合が46.1%で最も高く、次いで「だいたいわかる」(28.9%)が続き、これに「いつもわかる」(6.6%)を合わせた“わかる”の割合は35.5%となっています。一方、“わからない”(「わからないことが多い」6.6%と「ほとんどわからない」3.9%の合計)の割合は10.5%となっています。

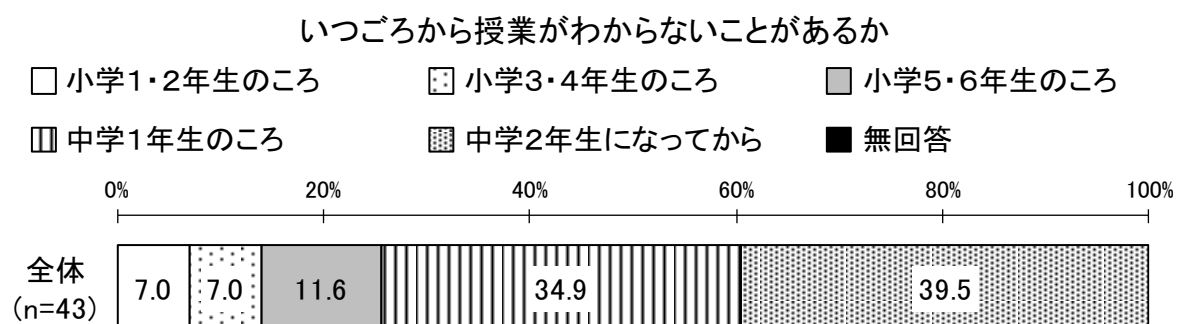


(5) いつごろから授業がわからないことがあるか

問5の質問で「教科によってはわからないことがある」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と答えた人にお聞きします。

問5-1 いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。(あてはまるもの1つに○)

いつごろから授業がわからないことがあるかについては、全体では「中学2年生になってから」の割合が39.5%で最も高く、次いで「中学1年生のころ」(34.9%)、「小学5・6年生のころ」(11.6%)などの順となっています。



3 将来の進学について

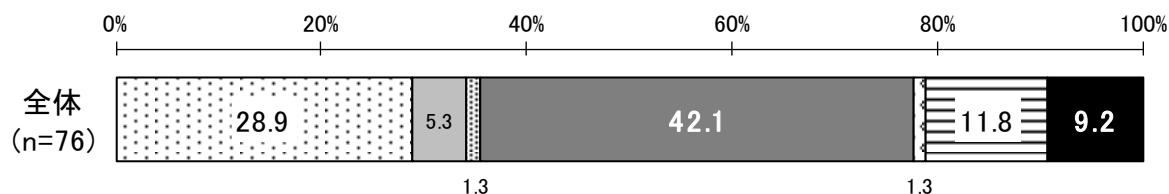
(1) 将来の進学について

問6 あなたは、将来の進学について、どのように考えていますか。（あてはまるもの1つに○）※高校には、特別支援学校高等部も含みます。

将来の進学については、全体では「高校（または5年制の高等専門学校）、大学」の割合が42.1%で最も高く、次いで「高校」（28.9%）、「高校、専門学校」（5.3%）などの順となっています。

将来の進学について

- ☐ 中学まで（進学しない）
- ☒ 高校
- ☒ 高校、専門学校
- ☐ 5年制の高等専門学校
- ☒ 高校、短大
- ☒ 高校（または5年制の高等専門学校）、大学
- ☒ 高校（または5年制の高等専門学校）、大学、大学院
- ☐ その他
- ☐ まだわからない
- ☐ 無回答



クラスの中での成績別でみると、『上のほう』『やや上のほう』『まん中あたり』では「高校（または5年制の高等専門学校）、大学」の割合が最も高く、それ以外の項目では「高校」の割合が最も高くなっています。

将来の進学について／クラスの中での成績別

		(上段：n、下段：%)									
	対象者 (n)	中学まで (進学しない)	高校	高校、専門 学校	5年制の高 等専門学校	高校、短大	高校（また は5年制の 高等専門学 校）、大学	高校（また は5年制の 高等専門学 校）、大 学、大学院	その他	まだわか らない	無回答
全体	76	0 0.0	22 28.9	4 5.3	0 0.0	1 1.3	32 42.1	0 0.0	1 1.3	9 11.8	7 9.2
クラス の中 での 成 績	上のほう	8 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 87.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	やや上のほう	15 0.0	2 13.3	0 0.0	0 0.0	1 6.7	9 60.0	0 0.0	0 0.0	3 20.0	0 0.0
	まん中あたり	19 0.0	3 15.8	2 10.5	0 0.0	0 0.0	10 52.6	0 0.0	1 5.3	2 10.5	1 5.3
	やや下のほう	11 0.0	7 63.6	1 9.1	0 0.0	0 0.0	1 9.1	0 0.0	0 0.0	2 18.2	0 0.0
	下のほう	11 0.0	6 54.5	1 9.1	0 0.0	0 0.0	3 27.3	0 0.0	0 0.0	1 9.1	0 0.0
	わからない	6 0.0	3 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0

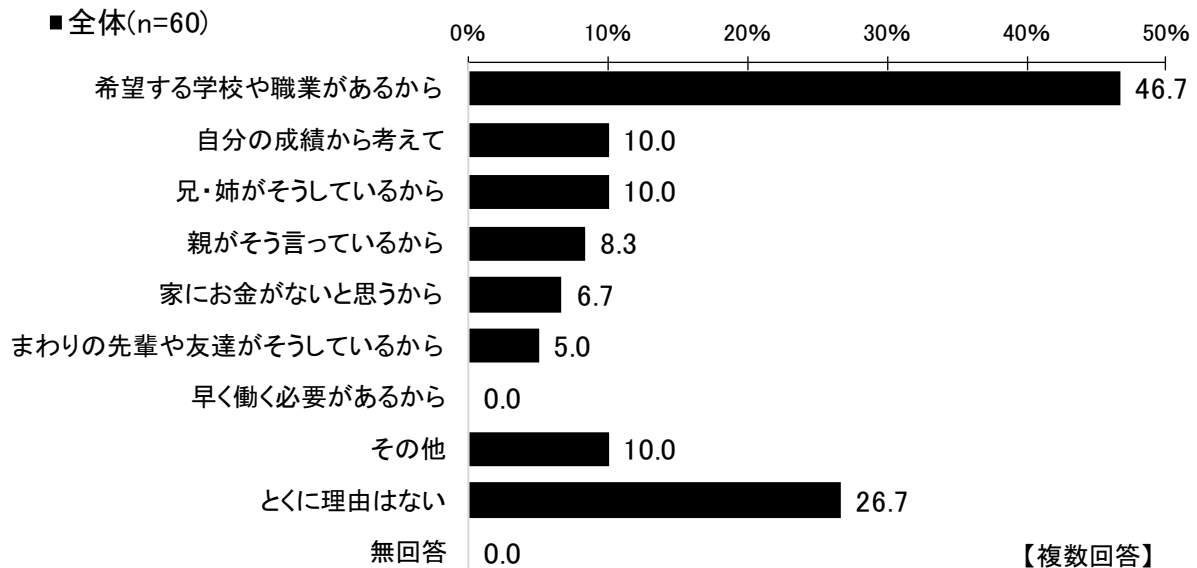
(2) 将来の進学についてそう考える理由

問6の質問で「まだわからない」以外を答えた人にお聞きします。

問6-1 その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

将来の進学についてそう考える理由については、全体では「希望する学校や職業があるから」の割合が46.7%で最も高く、次いで「自分の成績から考えて」「兄・姉がそうしているから」(同率10.0%)、「親がそう言っているから」(8.3%)などの順となっています。

将来の進学についてそう考える理由



将来の進学先別にみると、『高校』では「とくに理由はない」の割合が最も高くなっています。

将来の進学についてそう考える理由／将来の進学先別

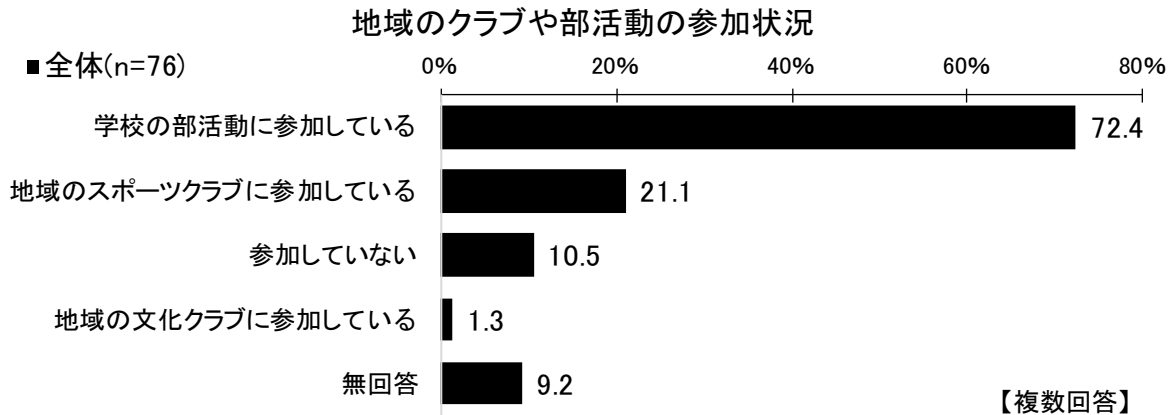
		(上段：n、下段：%)									
	対象者 (n)	希望する学校や職業があるから	自分の成績から考えて	親がそう言っているから	兄・姉がそうしているから	まわりの先輩や友達がそうしているから	家にお金がないと思うから	早く働く必要があるから	その他	とくに理由はない	無回答
全体	60	28 46.7	6 10.0	5 8.3	6 10.0	3 5.0	4 6.7	0 0.0	6 10.0	16 26.7	0 0.0
将来の進学先	中学まで（進学しない）	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	高校	7 31.8	1 4.5	2 9.1	2 9.1	2 9.1	3 13.6	0 0.0	4 18.2	8 36.4	0 0.0
	高校、専門学校	3 75.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	5年制の高等専門学校	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	高校、短大	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	高校（または5年制の高等専門学校）、大学	16 50.0	4 12.5	2 6.3	4 12.5	1 3.1	0 0.0	0 0.0	2 6.3	8 25.0	0 0.0
	高校（または5年制の高等専門学校）、大学、大学院	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

4 地域のクラブや部活動について

(1) 地域のクラブや部活動の参加状況

問7 あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか。
(あてはまるものすべてに○)

地域のクラブや部活動の参加状況については、全体では「学校の部活動に参加している」の割合が72.4%で最も高く、次いで「地域のスポーツクラブに参加している」(21.1%)、「参加していない」(10.5%)などの順となっています。



(2) 地域のクラブや部活動に参加していない理由

問7で「参加していない」と答えた人にお聞きします。

問7-1 参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

地域のクラブや部活動に参加していない理由については、全体では「参加したいクラブ・部活動がないから」が4人で最も多く、次いで「一緒に参加する友だちがいないから」が2人、「塾や習い事が忙しいから」が1人などの順となっています。

地域のクラブや部活動に参加していない理由	
項目	回答数(n)
参加したいクラブ・部活動がないから	4
塾や習い事が忙しいから	1
費用がかかるから	0
家の事情(家族の世話、家事など)があるから	0
一緒に参加する友だちがいないから	2
行き、帰りの移動手段が確保できないから	0
その他	4
無回答	0
非該当	68
全体(非該当除く)	8

5 食事と睡眠状況について

(1) 1週間の食事の頻度

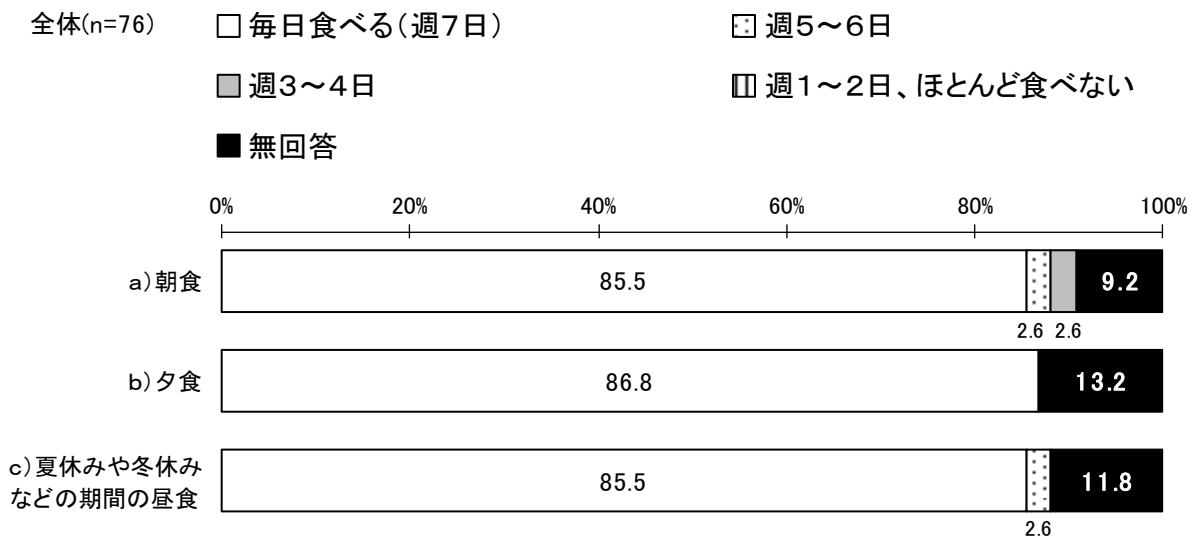
問8 あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。（a～cそれぞれについて、あてはまるもの1つに○）

1週間の食事の頻度については、朝食では「毎日食べる（週7日）」の割合が85.5%で最も高く、次いで「週5～6日」「週3～4日」（同率2.6%）の順となっています。

夕食では「毎日食べる（週7日）」の割合が86.8%となっています。

夏休みや冬休みなどの期間の昼食では「毎日食べる（週7日）」の割合が85.5%で最も高く、次いで「週5～6日」（2.6%）の順となっています。

1週間の食事の頻度

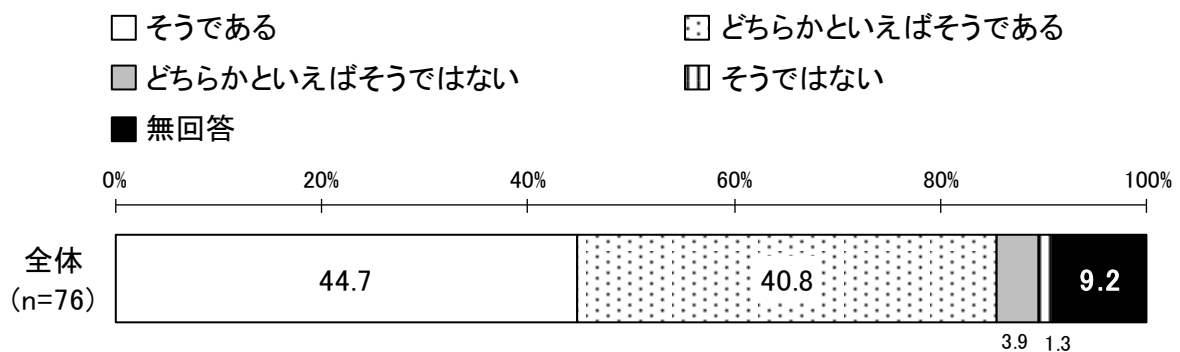


(2) 平日（月～金）ほぼ同じ時間に寝ているか

問9 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時間に寝ていますか。（あてはまるもの1つに○）

平日（月～金）ほぼ同じ時間に寝ているかについては、全体では「そうである」の割合が44.7%で最も高く、次いで「どちらかといえばそうである」（40.8%）が続き、これらを合わせた“ほぼ同じ時間に寝ている”の割合は85.5%となっています。一方、“同じ時間に寝ていない”（「どちらかといえばそうではない」3.9%と「そうではない」1.3%の合計）の割合は5.2%となっています。

平日（月～金）ほぼ同じ時間に寝ているか

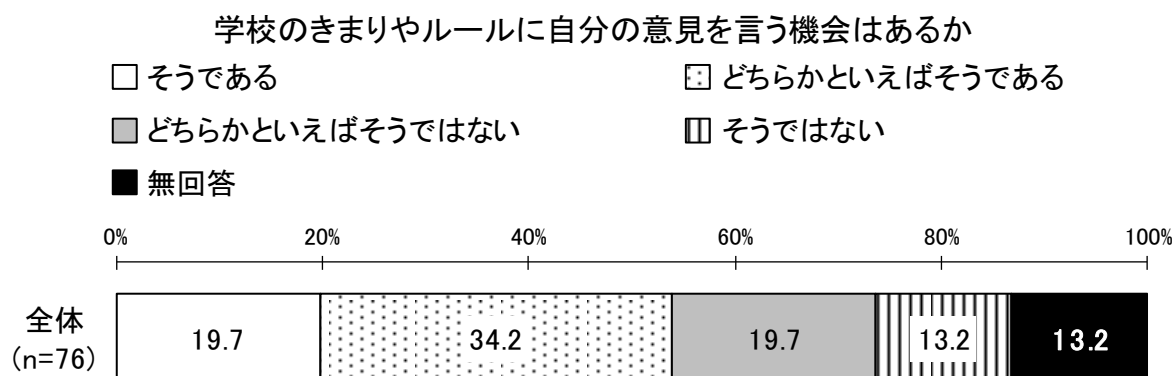


6 悩みごとや相談先について

(1) 学校のきまりやルールに自分の意見を言う機会はあるか

問10 あなたは、学校のきまりやルールに対して、自分の意見を言う機会があると感じますか。(あてはまるもの1つに○)

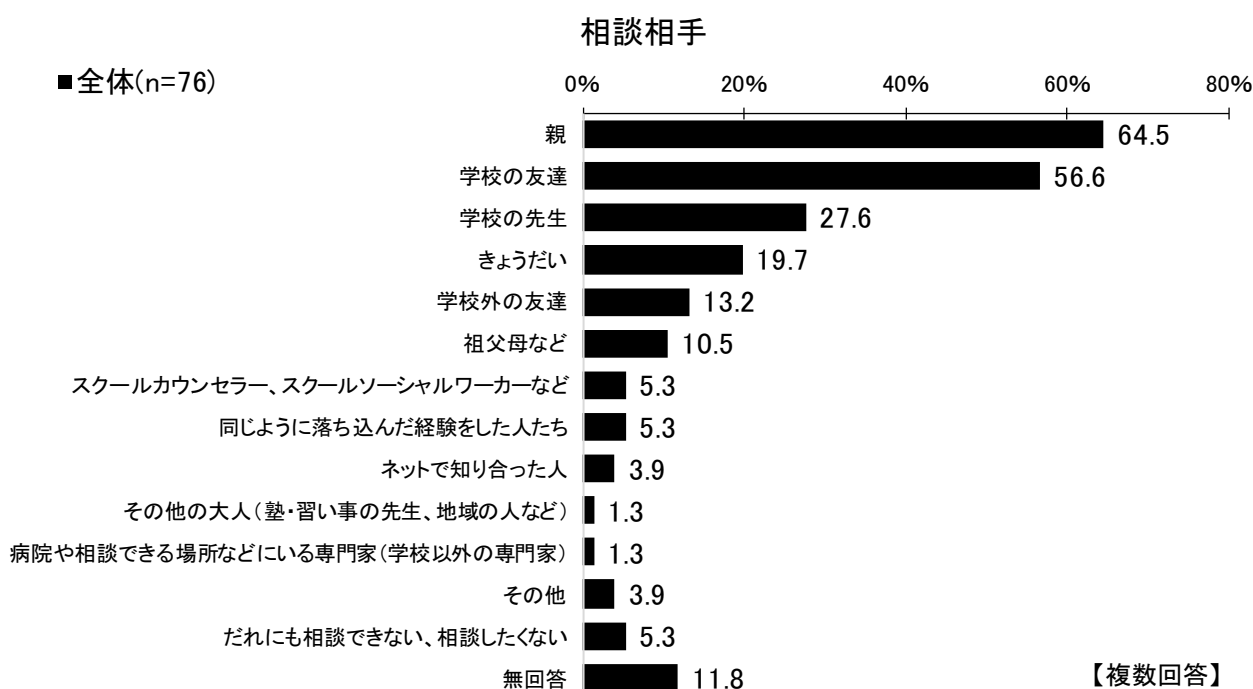
学校のきまりやルールに自分の意見を言う機会があるかについては、全体では「どちらかといえばそうである」の割合が34.2%で最も高く、次いで「そうである」(19.7%)が続く、これらを合わせた「機会がある」の割合は53.9%となっています。一方、「機会がない」(「どちらかといえばそうではない」19.7%と「そうではない」13.2%の合計)の割合は32.9%となっています。



(2) 相談相手

問11 あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。(あてはまるものすべてに○)

相談相手については、全体では「親」の割合が64.5%で最も高く、次いで「学校の友達」(56.6%)、「学校の先生」(27.6%)などの順となっています。



(3) だれにも相談しない理由

問11で「だれにも相談できない、相談したくない」と答えた人にお聞きします。

問11-1 「だれにも相談できない、相談したくない」の理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

だれにも相談しない理由については、全体では「自分ひとりで解決すべきだと思うから」が2人、「相談しても解決できないと思うから」「誰にも知られたくないことだから」「自分が変な人に思われるのではないかと不安だから」「自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから」「何を聞かれるか不安に思うから」「相手にうまく伝えられないから」がそれぞれ1人ずつとなっています。

だれにも相談しない理由

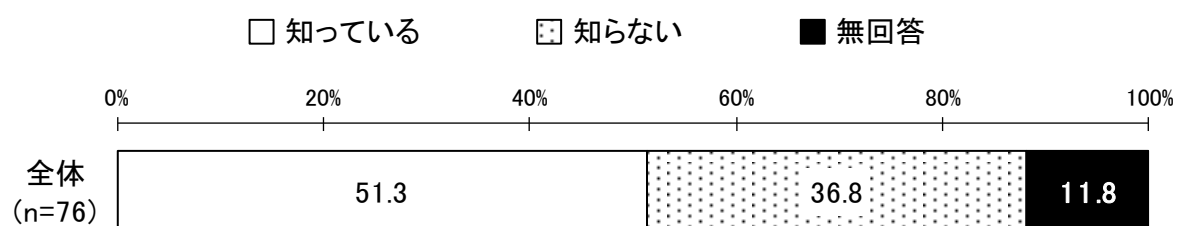
項目	回答数(n)
相談しても解決できないと思うから	1
自分ひとりで解決すべきだと思うから	2
誰にも知られたくないことだから	1
自分が変な人に思われるのではないかと不安だから	1
自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから	1
相手がどんな人かわからないから	0
何を聞かれるか不安に思うから	1
嫌なこと、できないことをするように言われそうだから	0
相手にうまく伝えられないから	1
裏切られたり、失望するのが嫌だから	0
お金がかかると思うから	0
その他	0
特に理由はない、わからない	0
無回答	0
非該当	72
全体（非該当除く）	4

(4) 家庭や学校以外で悩みを相談できる場所があることを知っているか

問12 あなたは、家庭や学校以外で、悩みやこまりごとなどを相談できる場所があることを知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

家庭や学校以外で悩みを相談できる場所があることを知っているかについては、全体では「知っている」の割合が51.3%、「知らない」の割合が36.8%となっています。

家庭や学校以外で悩みを相談できる場所があることを知っているか



7 最近の生活について

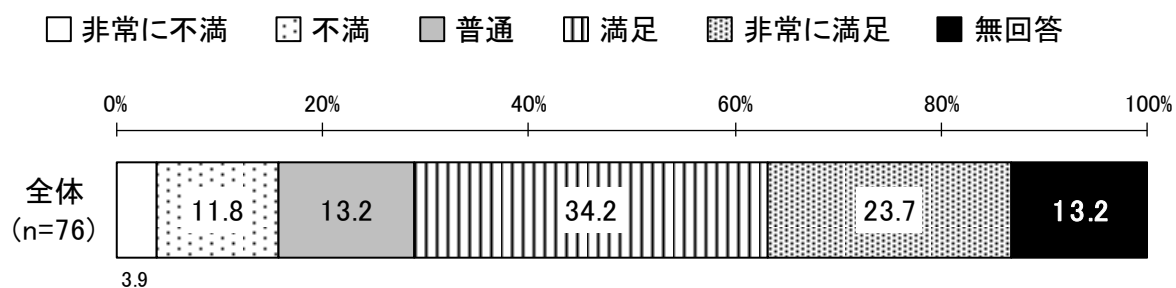
(1) 生活の満足度

問13 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）の数字で教えてください。（あてはまるもの1つに○）

0～2を「非常に不満」、3～4を「不満」、5～6を「普通」、7～8を「満足」、9～10を「非常に満足」として集計しました。

全体では「満足」の割合が34.2%で最も高く、次いで「非常に満足」（23.7%）が続き、これらを合わせた“満足”の割合は57.9%となっています。一方、“不満”（「非常に不満」3.9%と「不満」11.8%の合計）の割合は15.7%となっています。なお、「普通」は13.2%でした。

生活の満足度

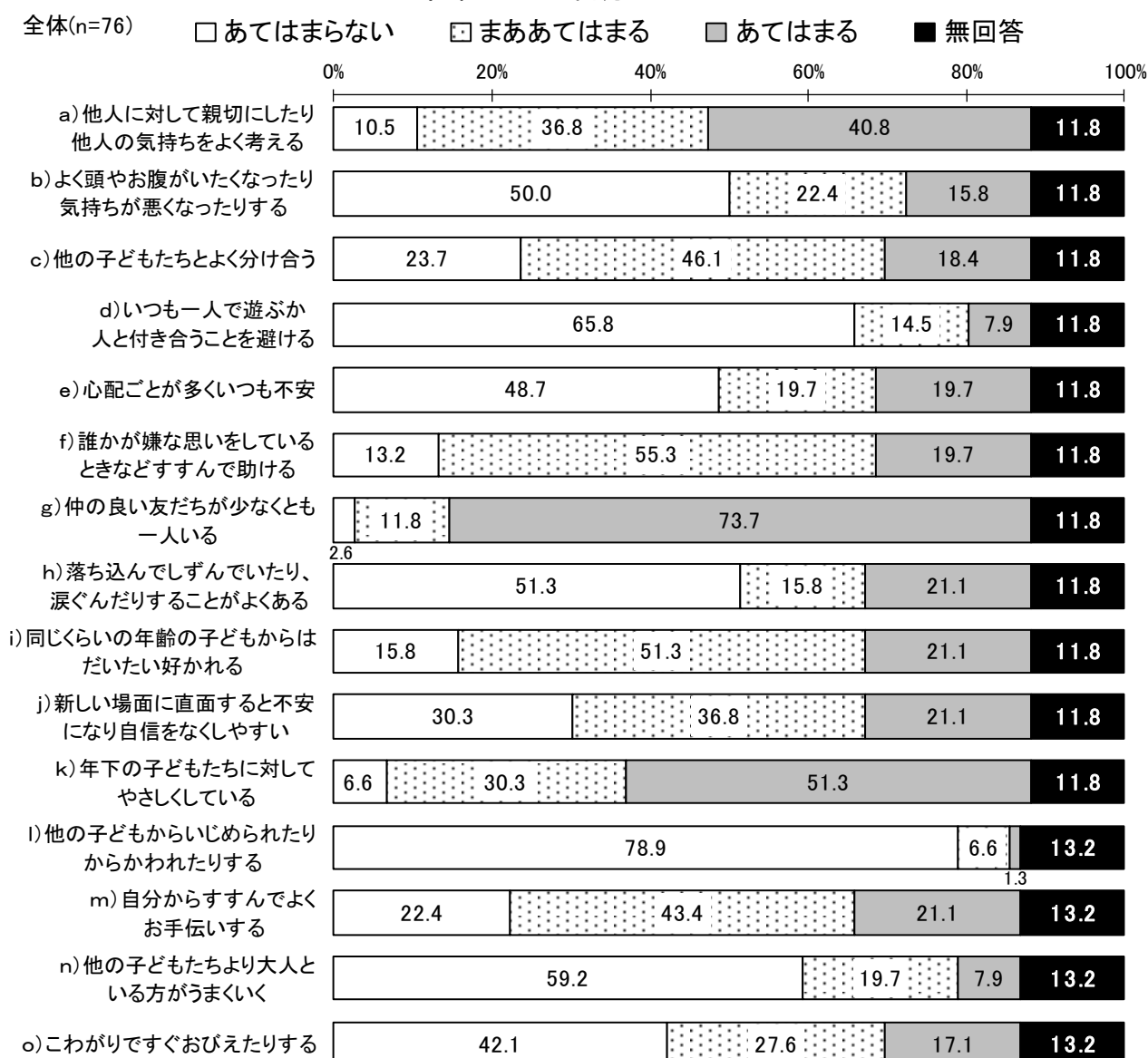


(2) ここ半年くらいの自分のことについて

問14 以下のそれぞれの質問について、「あてはまらない」「まああてはまる」「あてはまる」のどれかから回答してください。答えに自信がなくても、あるいは、その質問がばからしいと思えたとしても、全部の質問に答えてください。あなたのここ半年くらいのことを考えて答えてください。(a～oそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ここ半年くらいの自分のことについて、“あてはまる”(「まああてはまる」と「あてはまる」の合計)の割合が最も高い項目は『g) 仲の良い友だちが少なくとも一人いる』(85.5%)で、次いで『k) 年下の子どもたちに対してやさしくしている』(81.6%)、『a) 他人に対して親切にしたり他人の気持ちをよく考える』(77.6%)、『f) 誰かが嫌な思いをしているときなどすすんで助ける』(75.0%)などの順となっており、周囲に対して思いやりをもって接する回答が多くなっています。一方、「あてはまらない」の割合は『l) 他の子どもからいじめられたりからかわれたりする』(78.9%)が最も高く、次いで『d) いつも一人で遊ぶか人と付き合うことを避ける』(65.8%)、『n) 他の子どもたちより大人という方がうまくいく』(59.2%)などの順となっています。

ここ半年くらいの自分のことについて

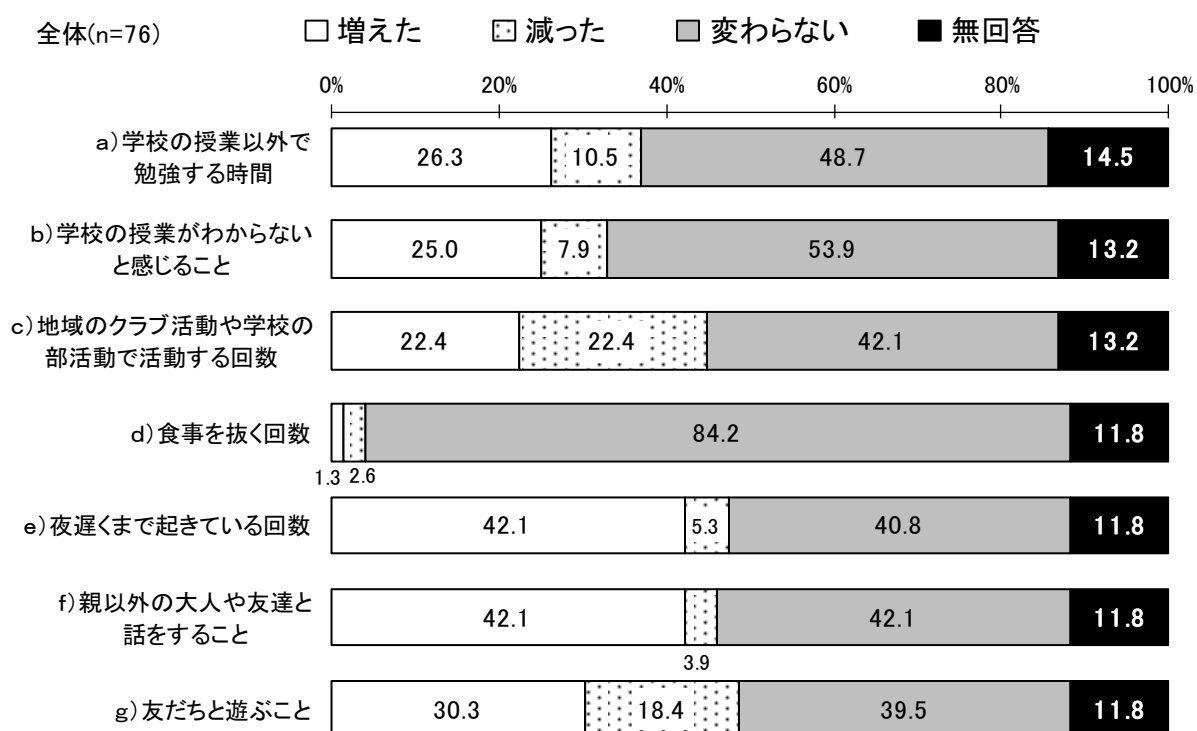


(3) 新型コロナウイルス感染症の拡大による休校前と現在での変化

問15 あなたの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校等になる前（2020年2月以前）と比べて、どのように変わったと思いますか。（a～gそれぞれについて、あてはまるもの1つに○）

新型コロナウイルス感染症の拡大による休校前と現在での変化について、「増えた」の割合が最も高い項目は『e) 夜遅くまで起きている回数』『f) 親以外の大人や友達と話をすること』（同率42.1%）で、次いで『g) 友だちと遊ぶこと』（30.3%）、『a) 学校の授業以外で勉強する時間』（26.3%）などの順となっています。一方、「減った」の割合は『c) 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数』（22.4%）が最も高く、次いで『g) 友だちと遊ぶこと』（18.4%）、『a) 学校の授業以外で勉強する時間』（10.5%）などの順となっています。

新型コロナウイルス感染症の拡大による休校前と現在での変化



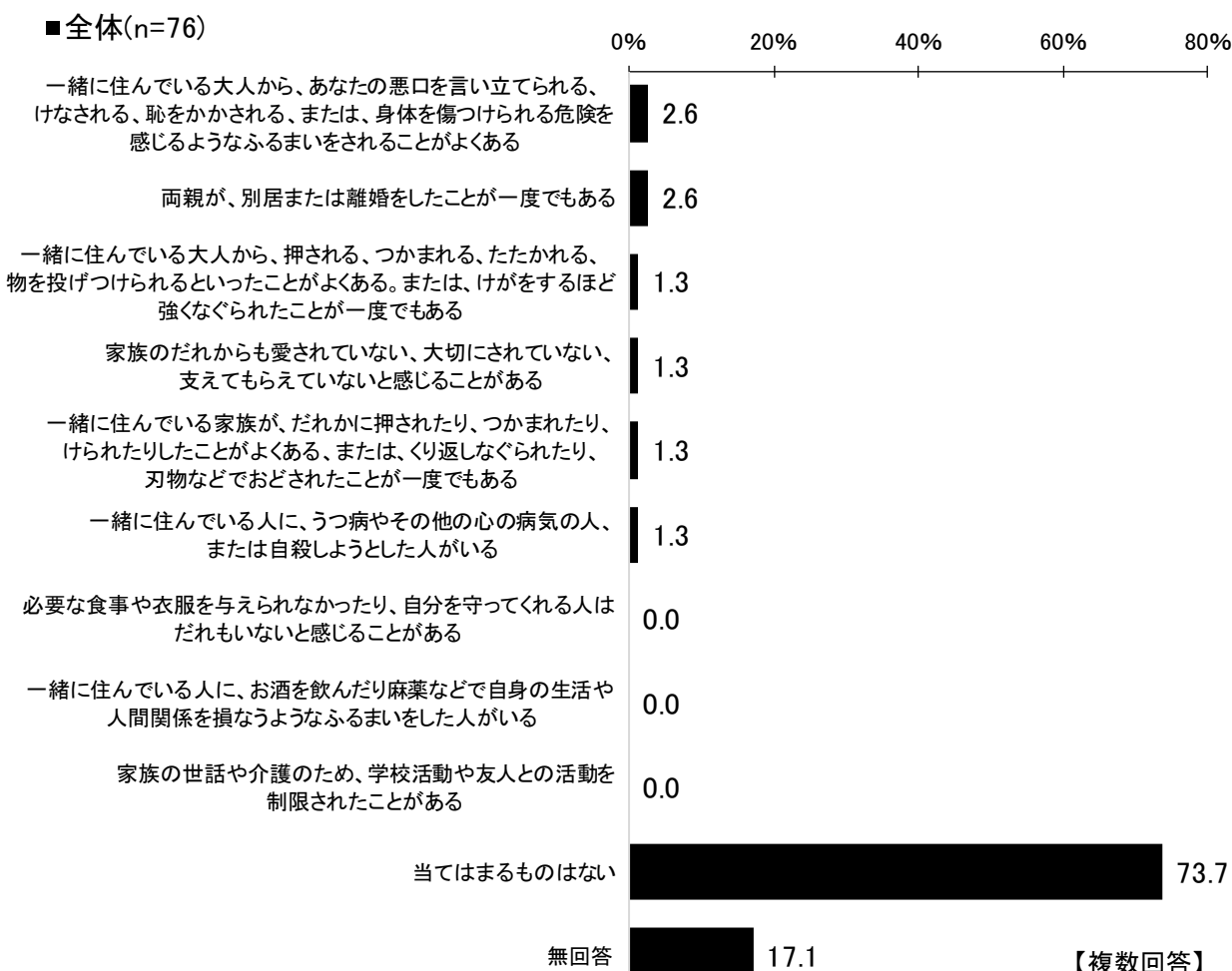
8 自分の居場所について

(1) 家族との関係について

問16 あなたは今までに、以下のようなことがありましたか。あてはまるものを答えてください。（あてはまるものすべてに○）

家族との関係については、全体では「一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされることがよくある」「両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある」の割合が同率2.6%で、「一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げつけられるといったことがよくある。または、けがをするほど強くなぐられたことが一度でもある」「家族のだれからも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感ずることがある」「一緒に住んでいる家族が、だれかに押されたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある、または、くり返しなぐられたり、刃物などでおどされたことが一度でもある」「一緒に住んでいる人に、うつ病やその他の心の病気の人、または自殺しようとした人がいる」が同率1.3%となっています。なお、「当てはまるものはない」の割合は73.7%となっています。

家族との関係について



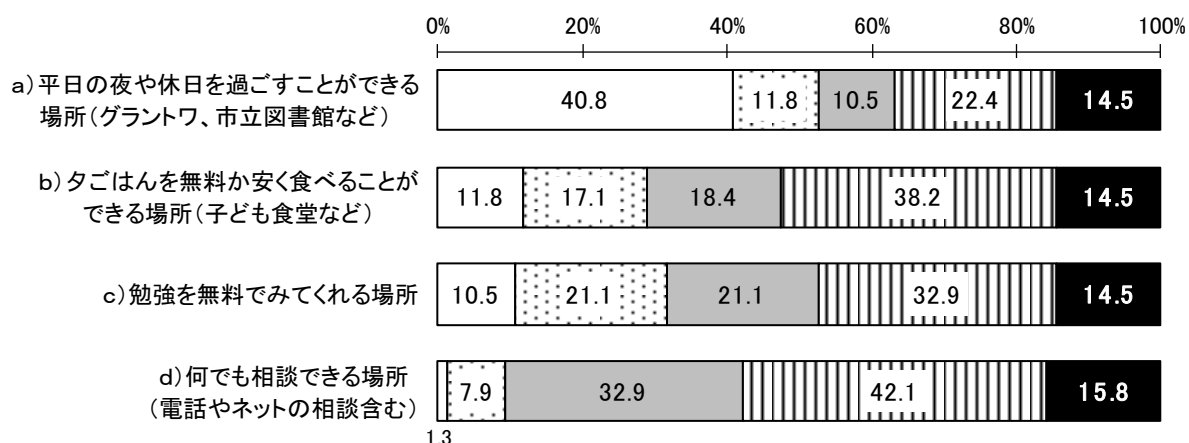
(2) 自分や友人の家または学校以外の居場所

問17 あなたは、次のa～dのような場所を利用したことがありますか。また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。(a～dそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

自分や友人の家または学校以外の居場所について、「利用したことがある」の割合が最も高い項目は『a) 平日の夜や休日を過ごすことができる場所(グラントワ、市立図書館など)』(40.8%)で、次いで『b) タごはんを無料か安く食べることができる場所(子ども食堂など)』(11.8%)、『c) 勉強を無料でみてくれる場所』(10.5%)などの順となっています。「あれば利用したいと思う」の割合は『c) 勉強を無料でみてくれる場所』(21.1%)が最も高く、次いで『b) タごはんを無料か安く食べることができる場所(子ども食堂など)』(17.1%)、『a) 平日の夜や休日を過ごすことができる場所(グラントワ、市立図書館など)』(11.8%)などの順となっています。一方、「今後も利用したいと思わない」の割合は『d) 何でも相談できる場所(電話やネットの相談含む)』(32.9%)が最も高く、次いで『c) 勉強を無料でみてくれる場所』(21.1%)、『b) タごはんを無料か安く食べることができる場所(子ども食堂など)』(18.4%)などの順となっています。

自分や友人の家または学校以外の居場所

全体(n=76) □ 利用したことがある ▨ あれば利用したいと思う
 ■ 今後も利用したいと思わない ▩ 今後利用したいかどうか分からない
 ■ 無回答

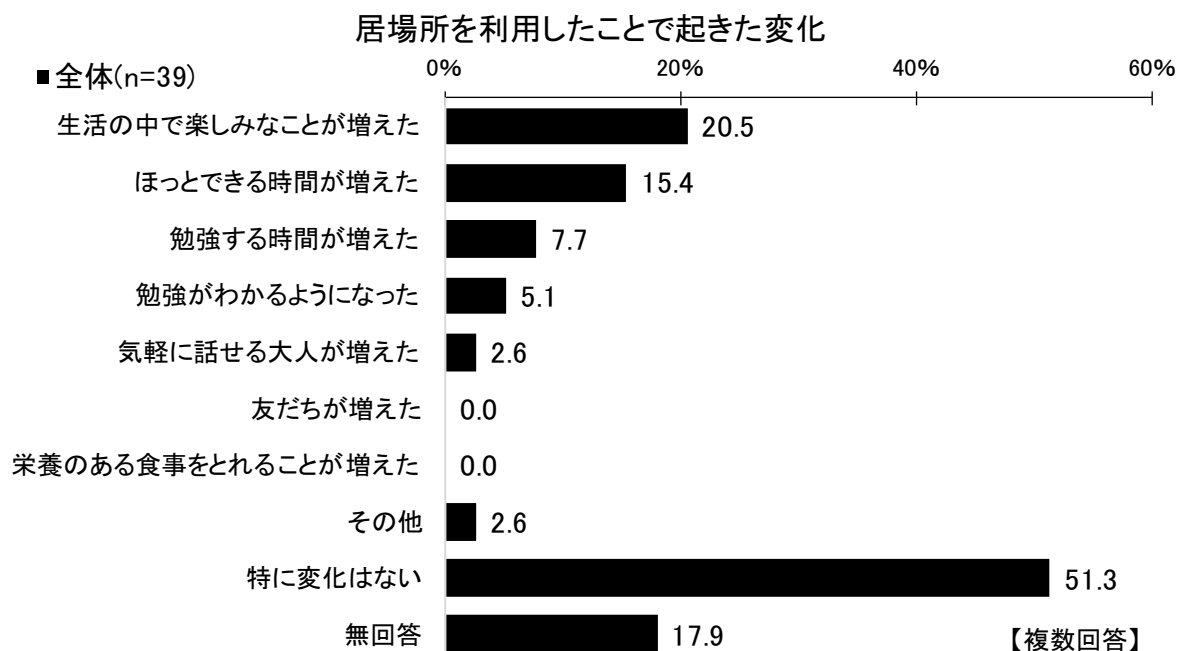


(3) 居場所を利用したことで起きた変化

問17で、1つでも「利用したことがある」と答えた人にお聞きします。

問17-1 そこを利用したことで、以下のような変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

居場所を利用したことで起きた変化については、全体では「生活の中で楽しいことが増えた」の割合が20.5%で最も高く、次いで「ほっとできる時間が増えた」(15.4%)、「勉強する時間が増えた」(7.7%)などの順となっています。



(4) 回答者の自己肯定感について

問18 あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。(a～dそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

回答者の自己肯定感について、“あてはまる”（「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」の合計）の割合が最も高い項目は『b) 自分の保護者からあいさされていると思う』（84.2%）で、8割以上が親子関係を肯定的にとらえています。次いで『c) うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む』（65.7%）、『a) 今の自分が好きだ』（63.2%）などの順となっています。一方、“あてはまらない”（「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」の合計）の割合は『d) 自分は役に立たないと強く感じる』（63.1%）が最も高く、6割以上が自分は役に立たないわけではないと感じています。次いで『a) 今の自分が好きだ』（22.3%）、『c) うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む』（19.8%）などの順となっています。

回答者の自己肯定感について

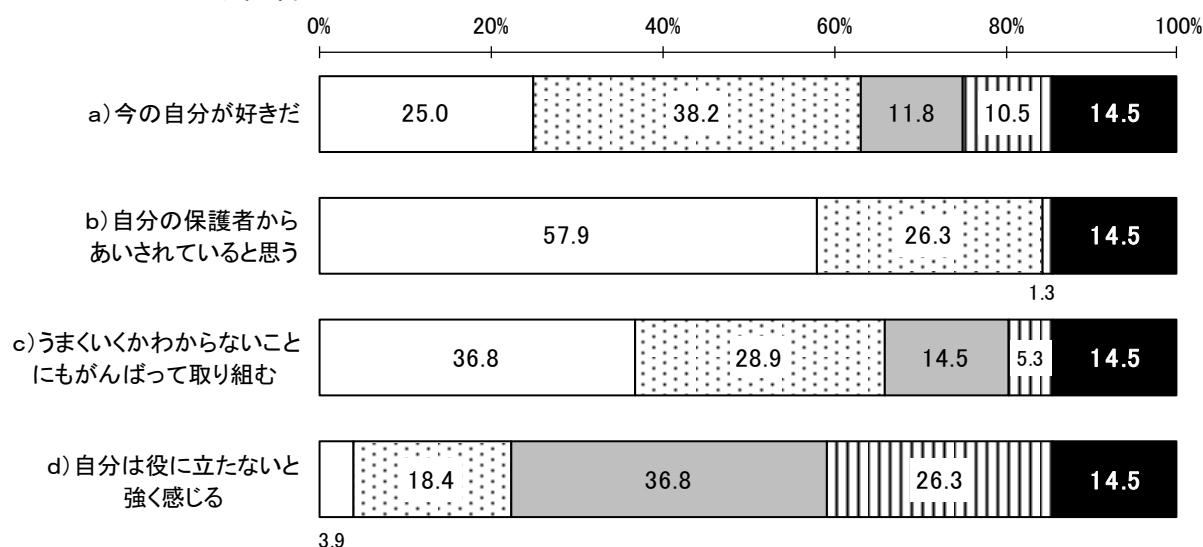
全体(n=76) □ あてはまる

▨ どちらかといえば、あてはまる

▩ どちらかといえば、あてはまらない

▤ あてはまらない

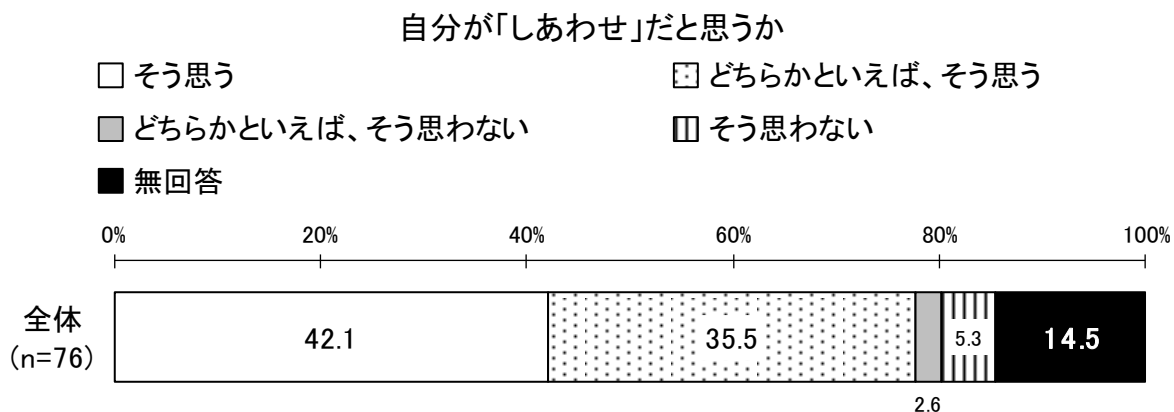
■ 無回答



(5) 自分が「しあわせ」だと思うか

問19 あなたは、今、自分が「しあわせ」だと思いますか。あなたの実感をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

自分が「しあわせ」だと思うかについては、全体では「そう思う」の割合は42.1%で最も高く、次いで「どちらかといえば、そう思う」（35.5%）が続き、これらを合わせた“しあわせだと思う”の割合は77.6%となっています。一方、“しあわせだと思わない”（「どちらかといえば、そう思わない」2.6%と「そう思わない」5.3%の合計）の割合は7.9%となっています。

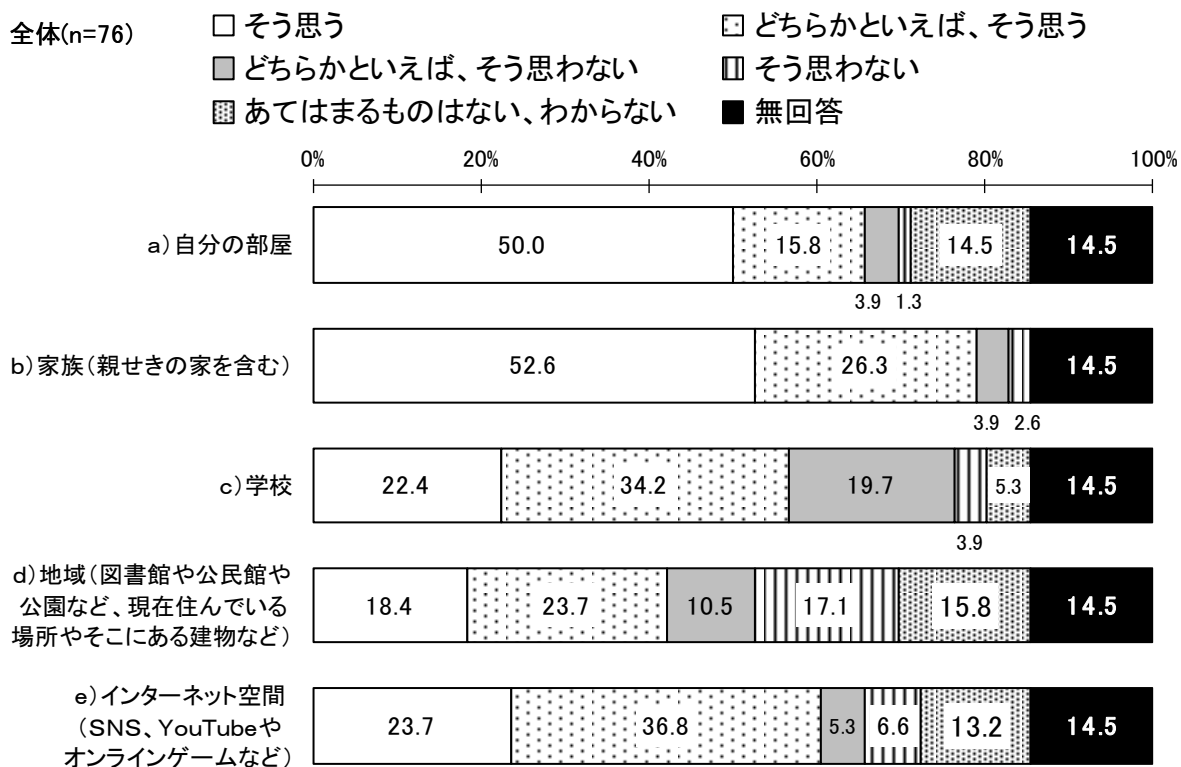


(6) 回答者にとっての居場所

問20 次の場所は、今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、安心できる場所）になっていますか。（a～eそれぞれについて、あてはまるもの1つに○）

回答者にとっての居場所について、“自分にとって居場所だと思う”（「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の合計）の割合が最も高い項目は『b) 家族（親せきの家を含む）』（78.9%）で、家族との関係性が良好とする人が8割弱となっています。次いで『a) 自分の部屋』（65.8%）、『e) インターネット空間（SNS、YouTubeやオンラインゲームなど）』（60.5%）などの順となっています。一方、“自分にとって居場所とは思わない”（「どちらかといえば、そう思わない」と「そう思わない」の合計）の割合は『d) 地域（図書館や公民館や公園など、現在住んでいる場所やそこにある建物など）』（27.6%）が最も高く、次いで『c) 学校』（23.6%）、『e) インターネット空間（SNS、YouTubeやオンラインゲームなど）』（11.9%）などの順となっています。

回答者にとっての居場所



(7) 自分の将来に明るい希望を持っているか

問21 あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。（あてはまるもの1つに○）

自分の将来に明るい希望を持っているかについては、全体では「どちらかといえば、そう思う」の割合が42.1%で最も高く、次いで「そう思う」（23.7%）が続き、これらを合わせた“自分の将来に明るい希望を持っている”の割合は65.8%となっています。一方、“自分の将来に明るい希望を持ってない”（「どちらかといえば、そう思わない」10.5%と「そう思わない」9.2%の合計）の割合は19.7%となっています。

自分の将来に明るい希望を持っているか

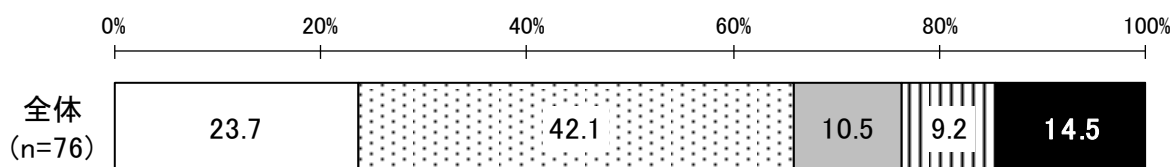
☐ そう思う

☐ どちらかといえば、そう思う

☐ どちらかといえば、そう思わない

☐ そう思わない

■ 無回答



9 こどもの権利について

(1) 「児童の権利条約」を知っているか

問22 「児童の権利条約」を知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

【児童の権利条約について】

児童(18歳未満の子ども)の基本的人権を国際的に保障するために定められた条約です。

児童の権利条約の4つの原則

- 差別の禁止(子どもはどんな理由でも差別されず、権利が保障されること)
- 子どもの最善の利益(子どもにとって最もよいことは何かを第一に考えること)
- 生命・生存及び発達に対する権利(命を守られ成長できること)
- 子どもの意見の尊重(子どもが意味のある参加ができること)

この4つの原則は、日本の子どもに関する基本的な法律である「こども基本法」にも取り入れられています。

「児童の権利条約」を知っているかについては、全体では「知らない」の割合が63.2%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」(19.7%)、「聞いたことがあり、内容も知っている」(2.6%)の順となっています。

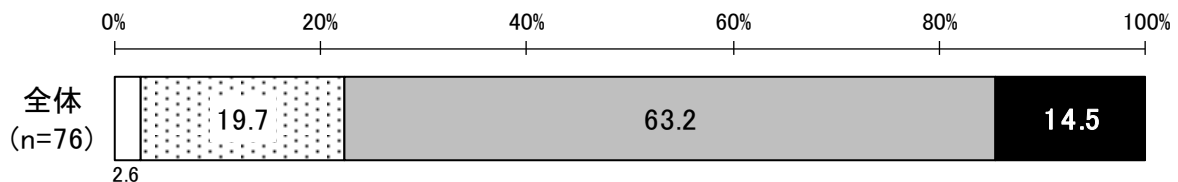
「児童の権利条約」を知っているか

☐ 聞いたことがあり、内容も知っている

☐ 聞いたことはあるが、内容は知らない

☐ 知らない

☐ 無回答



(2) 「こども基本法」を知っているか

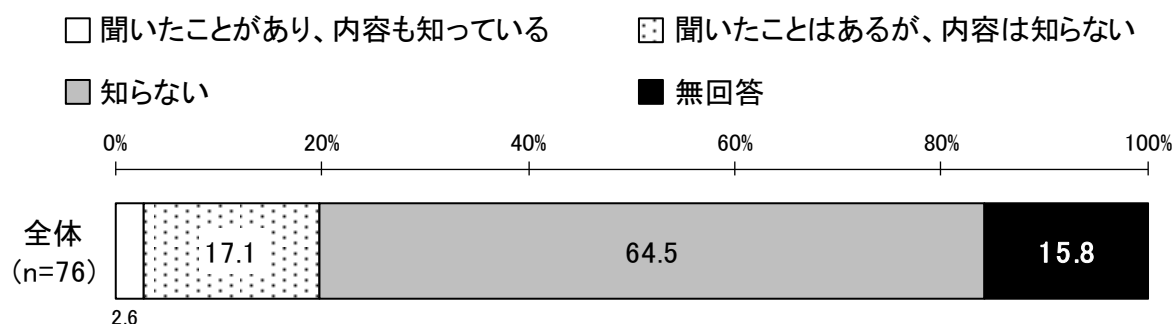
問23 「こども基本法」を知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

【こども基本法について】

すべてのこどもや若者が将来にわたって幸せな生活を送ることができる社会の実現を目指す法律です。国・県・市など、社会全体でこどもや若者に関する取組(「こども施策」)を進めていきます。

「こども基本法」を知っているかについては、全体では「知らない」の割合が64.5%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」(17.1%)、「聞いたことがあり、内容も知っている」(2.6%)の順となっています。

「こども基本法」を知っているか

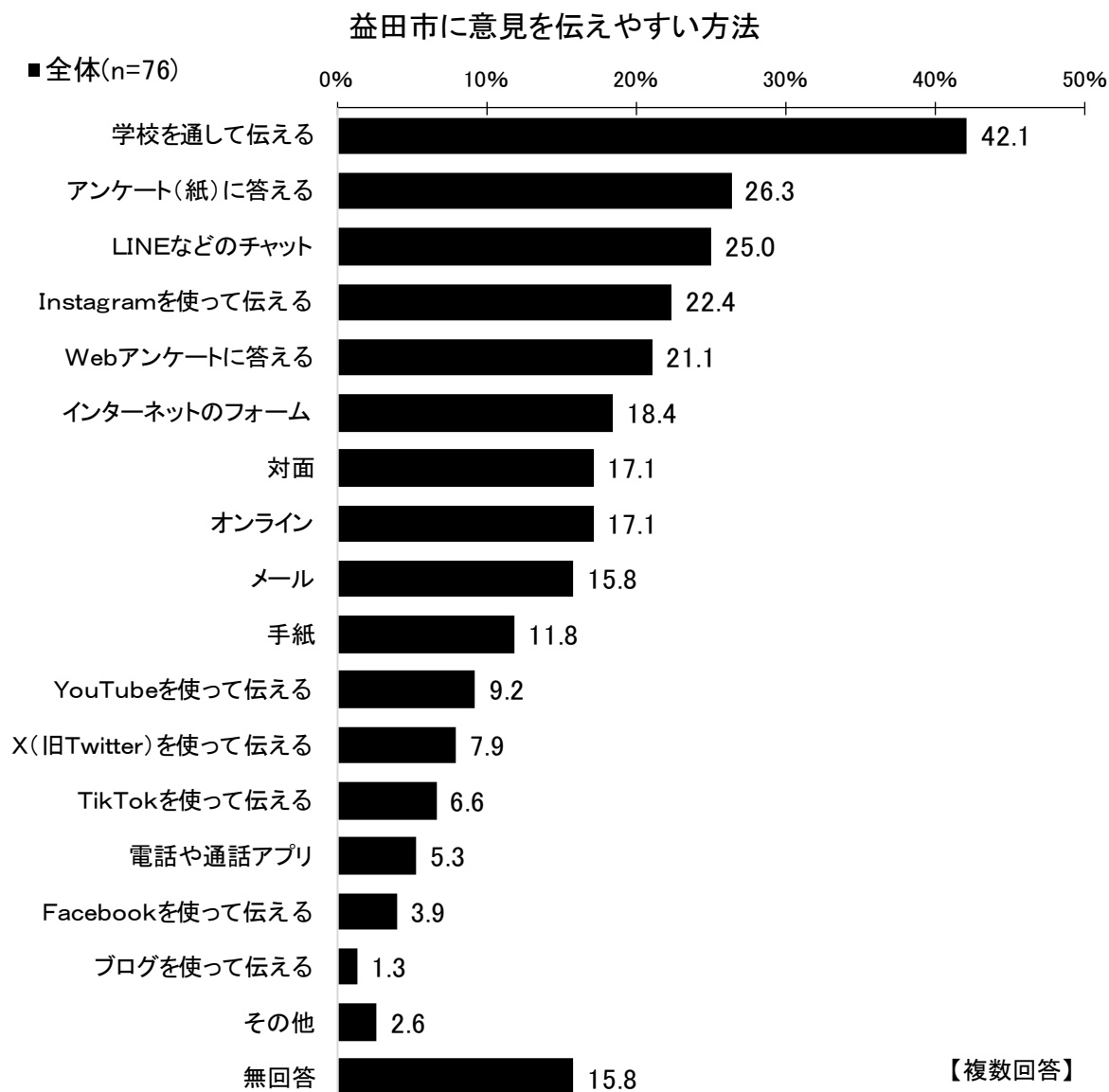


10 意見の伝達方法について

(1) 益田市に意見を伝えやすい方法

問24 益田市から子どもや若者に関する取組について意見を求められたときは、どのような方法であれば伝えやすいですか。（あてはまるものすべてに○）

益田市に意見を伝えやすい方法については、全体では「学校を通して伝える」の割合が42.1%で最も高く、次いで「アンケート（紙）に答える」（26.3%）、「LINEなどのチャット」（25.0%）などの順となっています。



益田市に意見を伝えやすい方法について性別でみると、『男子』は『女子』に比べて「対面」「オンライン」「インターネットのフォーム」などの割合が高くなっています。一方、『女子』は『男子』に比べて「Instagramを使って伝える」「アンケート（紙）に答える」「Webアンケートに答える」などの割合が高くなっています。

益田市に意見を伝えやすい方法／性別

		(上段：n、下段：%)									
		対象者 (n)	対面	オンライン	電話や通話 アプリ	手紙	メール	インター ネットの フォーム	LINEな どのチャッ ト	X (旧Tw itter)を使っ て伝える	Faceb ookを使っ て伝える
全体		76	13 17.1	13 17.1	4 5.3	9 11.8	12 15.8	14 18.4	19 25.0	6 7.9	3 3.9
性別	男子	33	7 21.2	9 27.3	2 6.1	3 9.1	5 15.2	9 27.3	8 24.2	3 9.1	3 9.1
	女子	40	5 12.5	3 7.5	2 5.0	4 10.0	6 15.0	5 12.5	9 22.5	3 7.5	0 0.0
	その他・答えたくない	3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0
		対象者 (n)	Instagramを 使って伝える	TikTokを使っ て伝える	YouTubeを使っ て伝える	ブログを使っ て伝える	アンケート （紙）に答 える	Webアン ケートに答 える	学校を通し て伝える	その他	無回答
全体		76	17 22.4	5 6.6	7 9.2	1 1.3	20 26.3	16 21.1	32 42.1	2 2.6	12 15.8
性別	男子	33	6 18.2	2 6.1	2 6.1	1 3.0	6 18.2	6 18.2	11 33.3	1 3.0	3 9.1
	女子	40	11 27.5	3 7.5	4 10.0	0 0.0	12 30.0	10 25.0	19 47.5	1 2.5	9 22.5
	その他・答えたくない	3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0

クラスの中での成績別でみると、ほとんどの項目では全体と同様に「学校を通して伝える」の割合が最も高くなっていますが、『下のほう』では「LINEなどのチャット」の割合が最も高くなっています。

益田市に意見を伝えやすい方法／クラスの中での成績別

		(上段：n、下段：%)									
		対象者 (n)	対面	オンライン	電話や通話 アプリ	手紙	メール	インター ネットの フォーム	LINEな どのチャッ ト	X (旧Tw itter)を使っ て伝える	Faceb ookを使っ て伝える
全体		76	13 17.1	13 17.1	4 5.3	9 11.8	12 15.8	14 18.4	19 25.0	6 7.9	3 3.9
クラス の中 での 成績	上のほう	8	1 12.5	1 12.5	0 0.0	2 25.0	2 25.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5	0 0.0
	やや上のほう	15	5 33.3	5 33.3	1 6.7	2 13.3	5 33.3	6 40.0	5 33.3	3 20.0	2 13.3
	まん中あたり	19	5 26.3	3 15.8	1 5.3	3 15.8	3 15.8	3 15.8	4 21.1	0 0.0	0 0.0
	やや下のほう	11	1 9.1	2 18.2	0 0.0	1 9.1	1 9.1	2 18.2	2 18.2	0 0.0	0 0.0
	下のほう	11	1 9.1	1 9.1	1 9.1	1 9.1	1 9.1	0 0.0	6 54.5	0 0.0	0 0.0
	わからない	6	0 0.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7	1 16.7	2 33.3	1 16.7
		対象者 (n)	Instagramを 使って伝える	TikTokを使っ て伝える	YouTubeを使っ て伝える	ブログを使っ て伝える	アンケート （紙）に答 える	Webアン ケートに答 える	学校を通し て伝える	その他	無回答
全体		76	17 22.4	5 6.6	7 9.2	1 1.3	20 26.3	16 21.1	32 42.1	2 2.6	12 15.8
クラス の中 での 成績	上のほう	8	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 37.5	3 37.5	4 50.0	0 0.0	1 12.5
	やや上のほう	15	5 33.3	3 20.0	3 20.0	1 6.7	5 33.3	5 33.3	7 46.7	0 0.0	1 6.7
	まん中あたり	19	6 31.6	1 5.3	2 10.5	0 0.0	6 31.6	3 15.8	9 47.4	1 5.3	2 10.5
	やや下のほう	11	2 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 18.2	1 9.1	5 45.5	1 9.1	1 9.1
	下のほう	11	0 0.0	0 0.0	1 9.1	0 0.0	3 27.3	3 27.3	4 36.4	0 0.0	1 9.1
	わからない	6	3 50.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	1 16.7	1 16.7	3 50.0	0 0.0	0 0.0

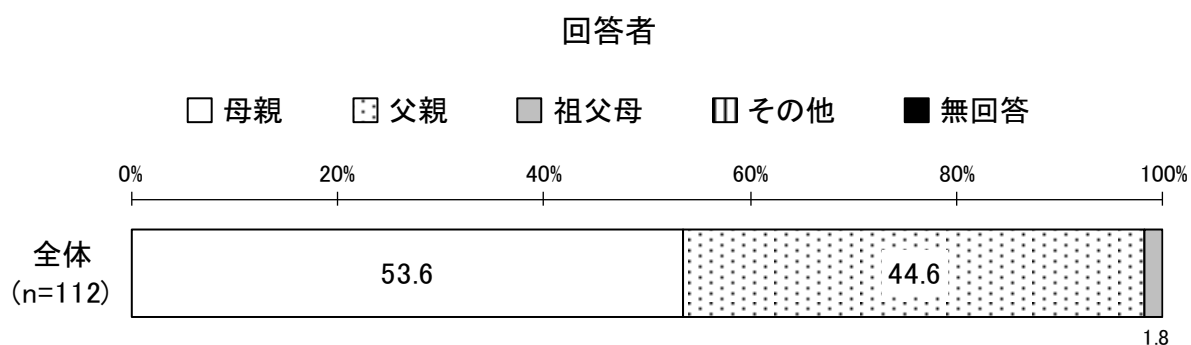
Ⅲ. 中学2年生保護者アンケート調査結果

1 回答者について

(1) 回答者

問1 お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。（あてはまるもの1つに○）

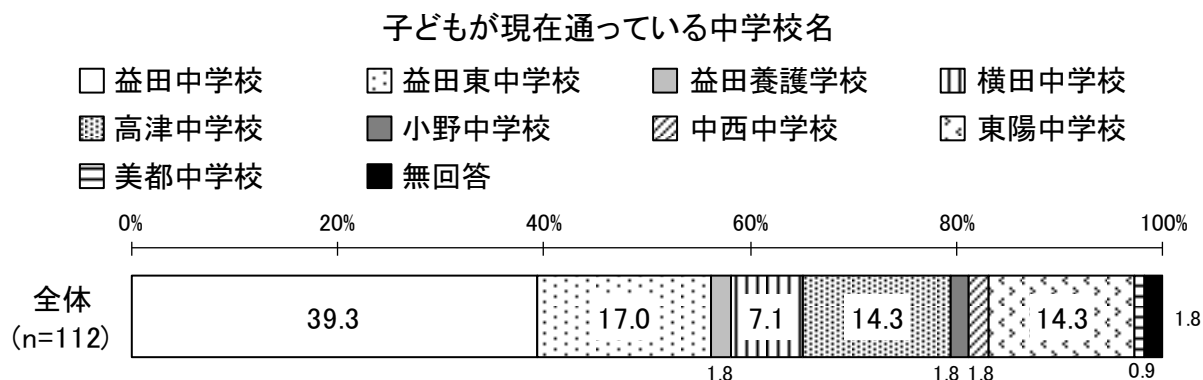
回答者については、全体では「母親」の割合が53.6%で最も高く、次いで「父親」（44.6%）、「祖父母」（1.8%）の順となっています。



(2) 子どもが現在通っている中学校名

問2 あなたのお子さんが現在通っている中学校名をお答えください。

子どもが現在通っている中学校名については、全体では「益田中学校」の割合が39.3%で最も高く、次いで「益田東中学校」（17.0%）、「高津中学校」「東陽中学校」（同率14.3%）などの順となっています。

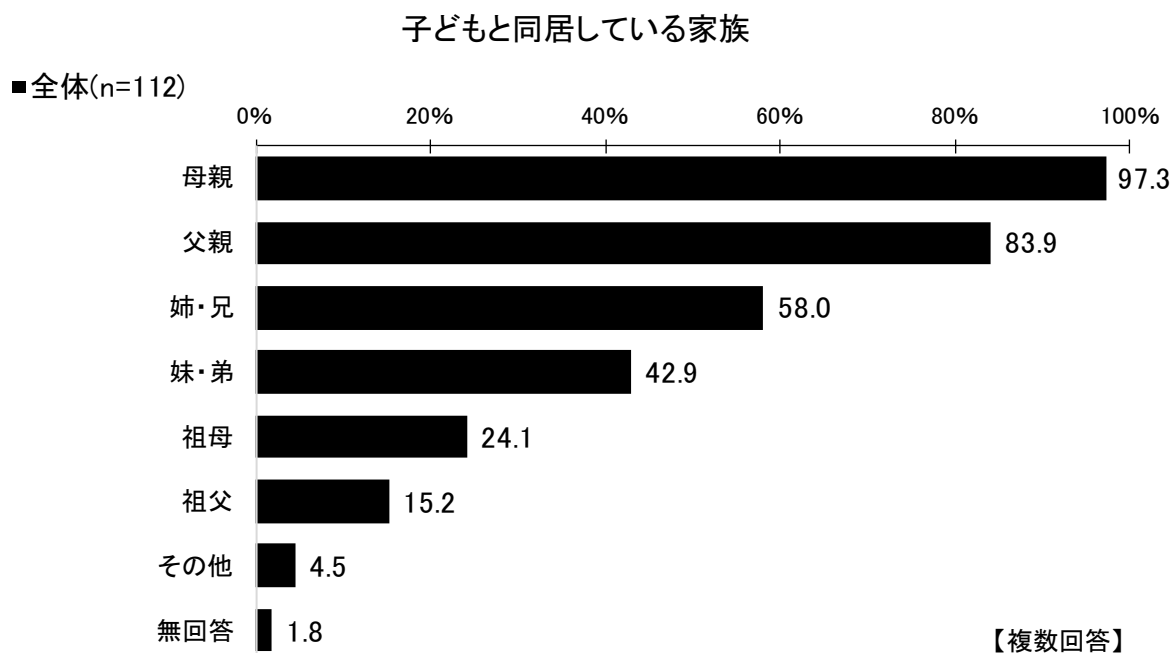


2 家族や家庭について

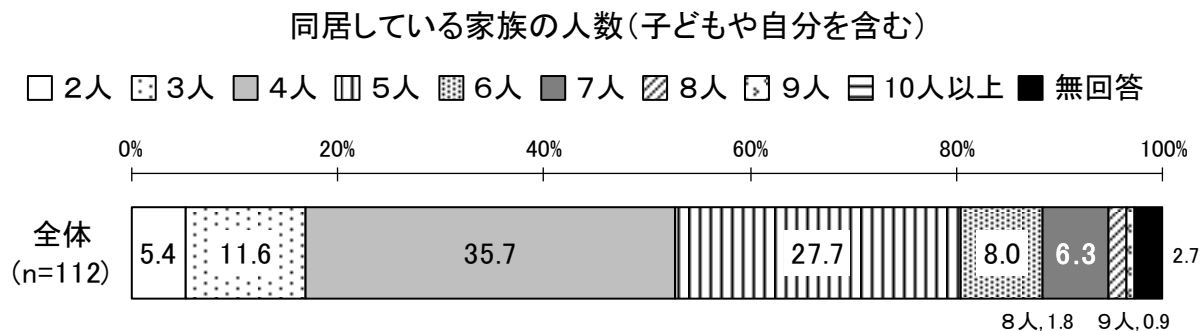
(1) 子どもと同居している家族

問3 お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の構成と人数をお答えください。単身赴任中の方や学業のために世帯を離れているお子さんがいる場合には、ご家族の人数に含めて教えてください。

子どもと同居している家族については、全体では「母親」の割合が97.3%で最も高く、次いで「父親」（83.9%）、「姉・兄」（58.0%）などの順となっています。



同居している家族の人数については、全体では「4人」の割合が35.7%で最も高く、次いで「5人」（27.7%）、「3人」（11.6%）などの順となっています。

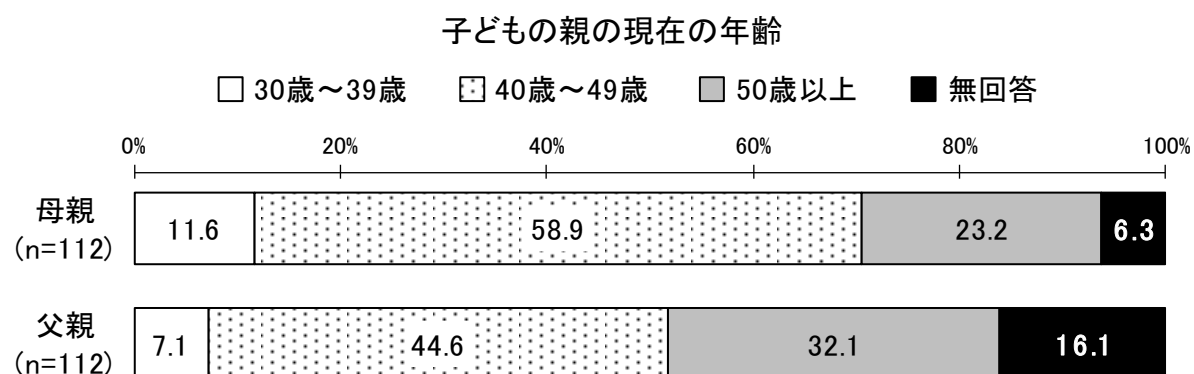


(2) 子どもの親の現在の年齢

問4 お子さんの親の現在の年齢についてお答えください。(母親・父親それぞれについて数字を入力、いない場合は「ー」と入力)

子どもの親の現在の年齢については、母親では「40歳～49歳」の割合が58.9%で最も高く、次いで「50歳以上」(23.2%)、「30歳～39歳」(11.6%)の順となっています。

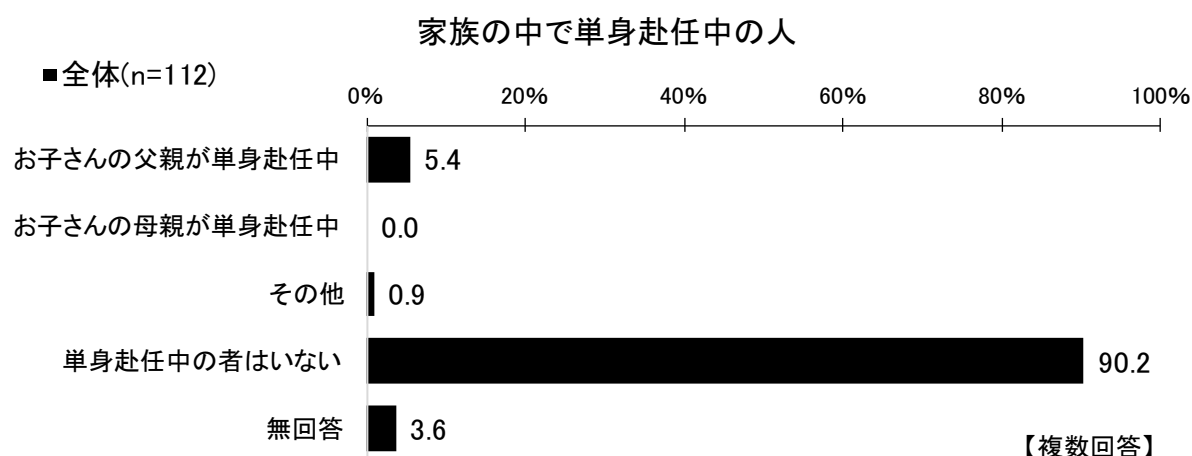
父親では「40歳～49歳」の割合が44.6%で最も高く、次いで「50歳以上」(32.1%)、「30歳～39歳」(7.1%)の順となっています。



(3) 家族の中で単身赴任中の人

問5 お子さんのご家族のうち、現在単身赴任中の方はいらっしゃいますか。(1～3については、あてはまるものすべてに○)

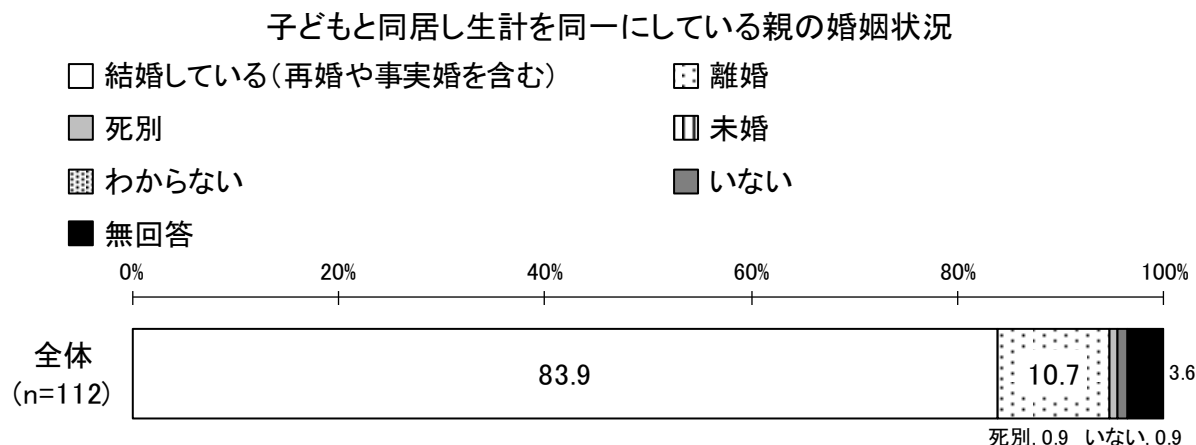
家族の中で単身赴任中の人については、全体では「お子さんの父親が単身赴任中」の割合が5.4%で、「お子さんの母親が単身赴任中」と回答した人はいませんでした。



(4) 子どもと同居し生計を同一にしている親の婚姻状況

問6 お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。（あてはまるもの1つに○）

子どもと同居し生計を同一にしている親の婚姻状況については、全体では「結婚している（再婚や事実婚を含む）」の割合が83.9%で最も高く、次いで「離婚」（10.7%）、「死別」（同率0.9%）の順となっています。

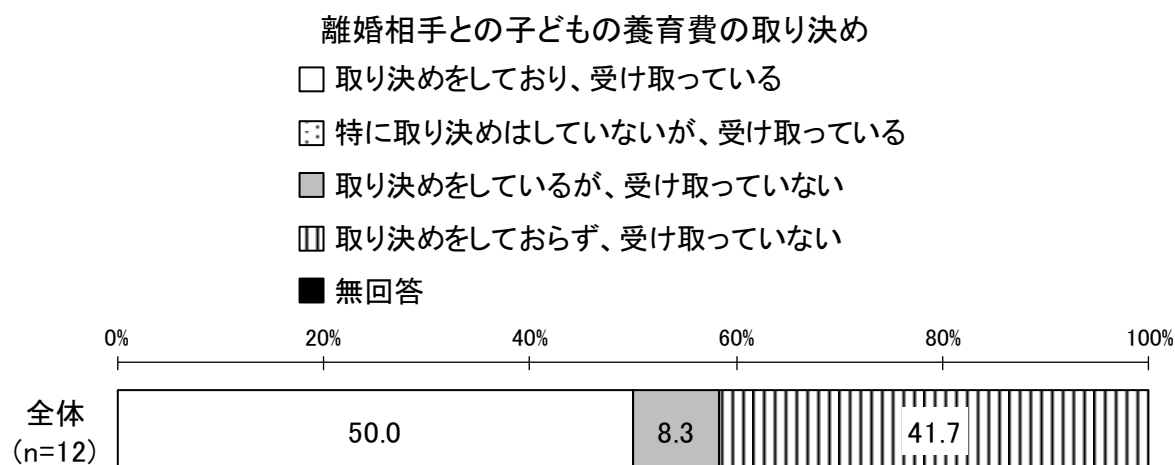


(5) 離婚相手との子どもの養育費の取り決め

問6で「離婚」と答えた人にお聞きます。

問6-1 離婚相手と子どもの養育費の取り決めをしていますか。また養育費を現在受け取っていますか。（あてはまるもの1つに○）

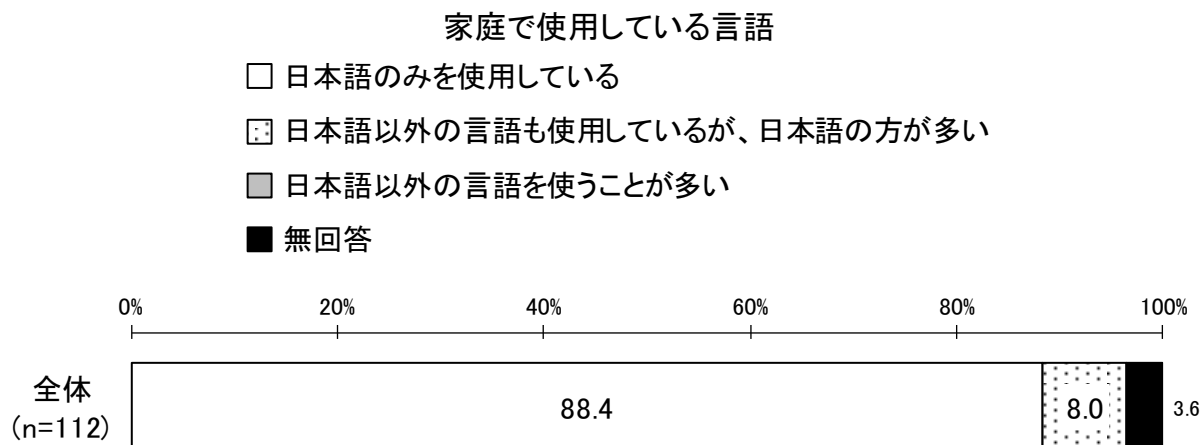
離婚相手と子どもの養育費の取り決めについては、全体では「取り決めをしており、受け取っている」の割合が50.0%で最も高く、次いで「取り決めをしておらず、受け取っていない」（41.7%）、「取り決めをしているが、受け取っていない」（8.3%）の順となっています。



(6) 家庭で使用している言語

問7 ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。(あてはまるもの1つに○)

家庭で使用している言語については、全体では「日本語のみを使用している」の割合が88.4%で最も高く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」(8.0%)の順となっています。



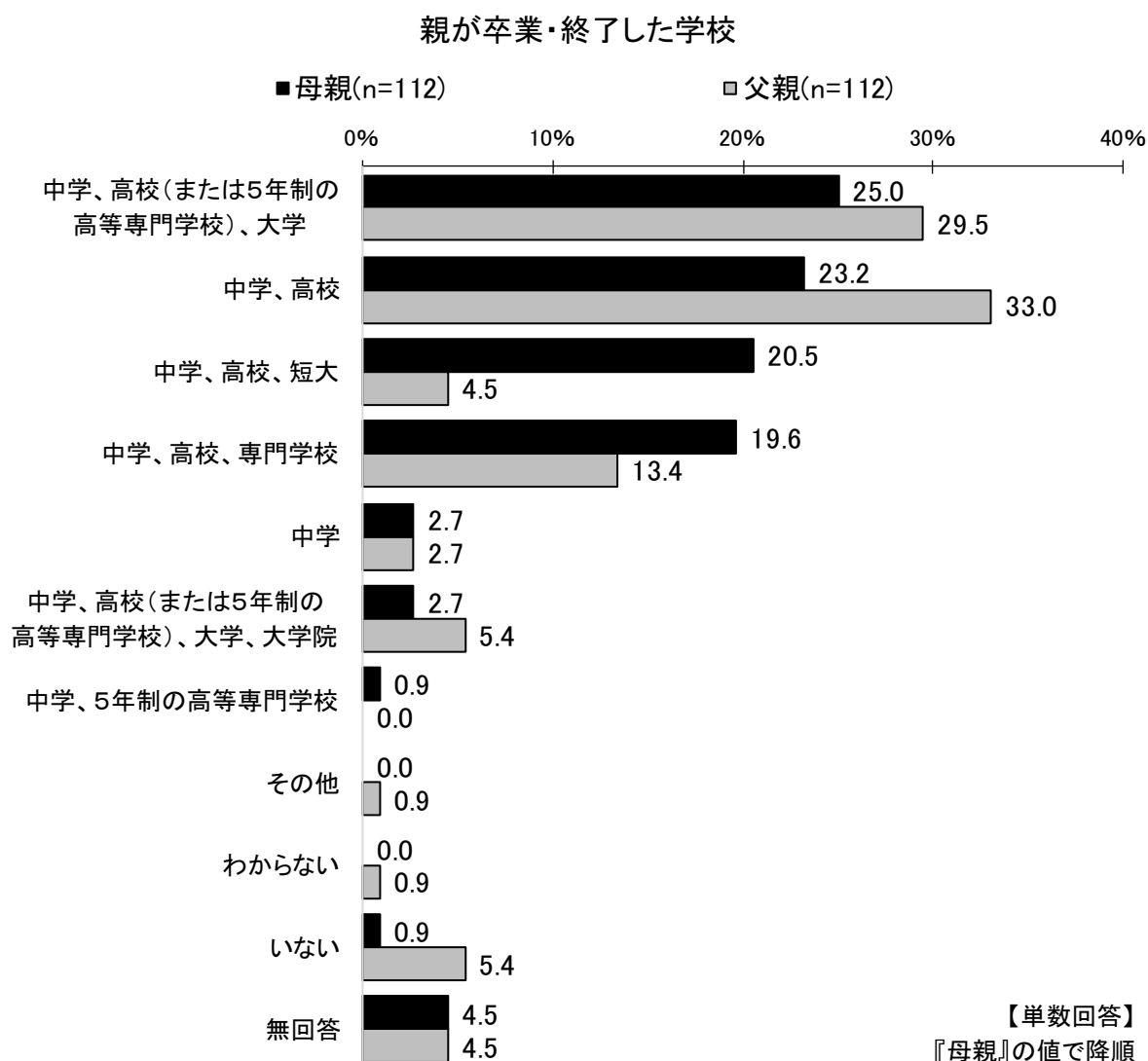
3 親について

(1) 親が卒業・終了した学校

問8 お子さんの親が卒業・修了した学校をお答えください。（あてはまるもの1つに○）
※中学、高校には、特別支援学校も含まれます。

親が卒業・終了した学校については、母親では「中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学」の割合が25.0%で最も高く、次いで「中学、高校」（23.2%）、「中学、高校、短大」（20.5%）などの順となっています。

父親では「中学、高校」の割合が33.0%で最も高く、次いで「中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学」（29.5%）、「中学、高校、専門学校」（13.4%）などの順となっています。



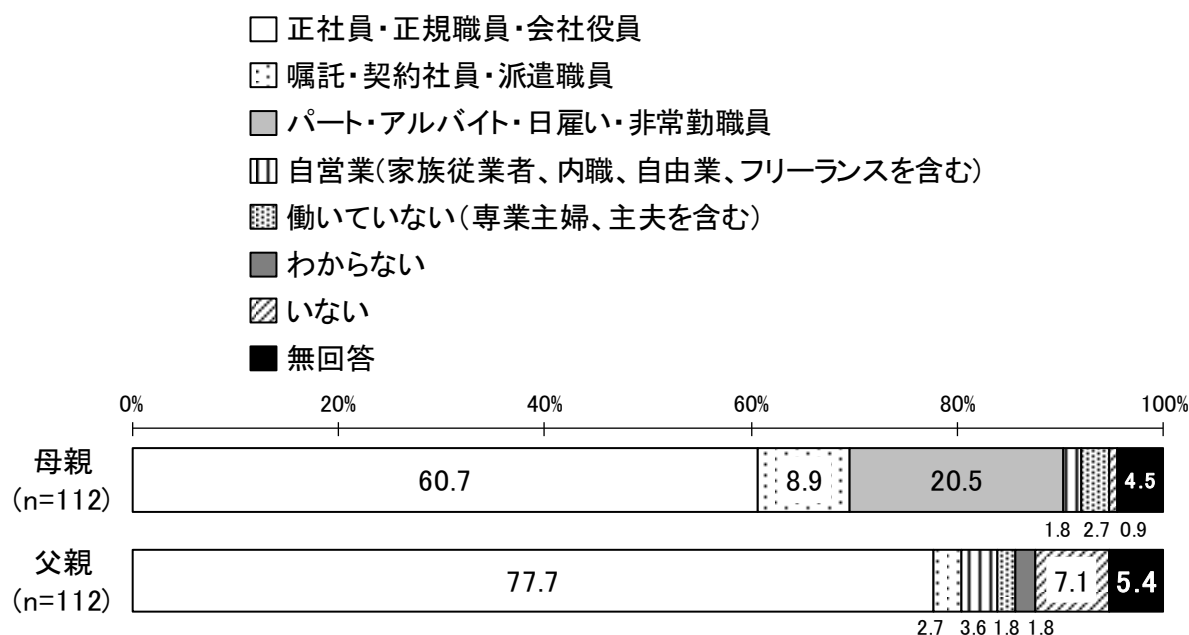
(2) 親の就労状況

問9 お子さんの親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。（あてはまるもの1つに○）

親の就労状況については、母親では「正社員・正規職員・会社役員」の割合が60.7%で最も高く、次いで「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」（20.5%）、「嘱託・契約社員・派遣職員」（8.9%）などの順となっています。

父親では「正社員・正規職員・会社役員」の割合が77.7%で最も高く、次いで「自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む)」（3.6%）、「嘱託・契約社員・派遣職員」（2.7%）などの順となっています。

親の就労状況



(3) 働いていない理由

問9で「働いていない」と答えた人にお聞きします。

問9-1 働いていない最も主な理由を教えてください。あてはまるもの1つに○

働いていない理由については、母親では「子育てを優先したいため」が3人となっています。「父親では自分の病気や障害のため」「その他の理由」が1人ずつとなっています。

働いていない理由

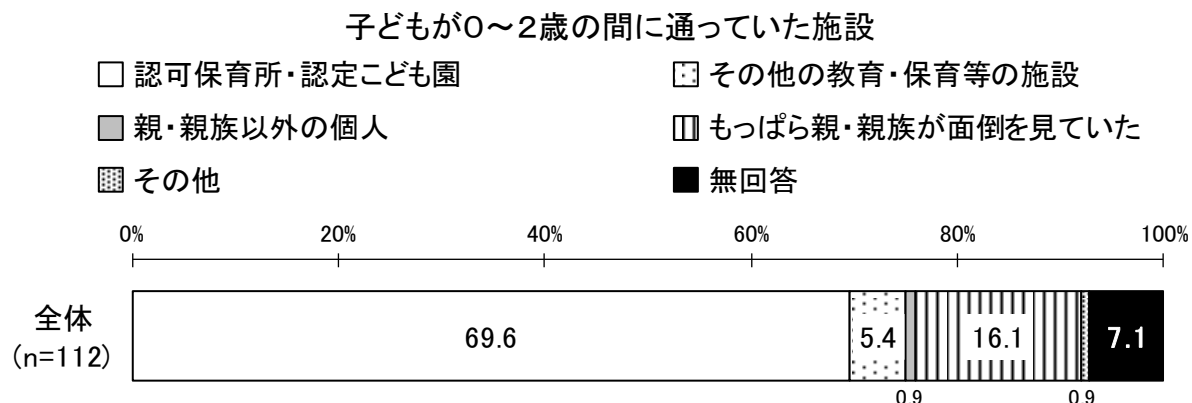
項目	母親 (n=3)	父親 (n=2)
働きたいが、希望する条件の仕事がないため	0	0
子育てを優先したいため	3	0
家族の介護・介助のため	0	0
自分の病気や障害のため	0	1
通学しているため	0	0
その他の理由	0	1
無回答	0	0
非該当	109	110
全体（非該当除く）	3	2

4 子どもが幼い頃の保育について

(1) 子どもが0～2歳の間に通っていた施設

問10 お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

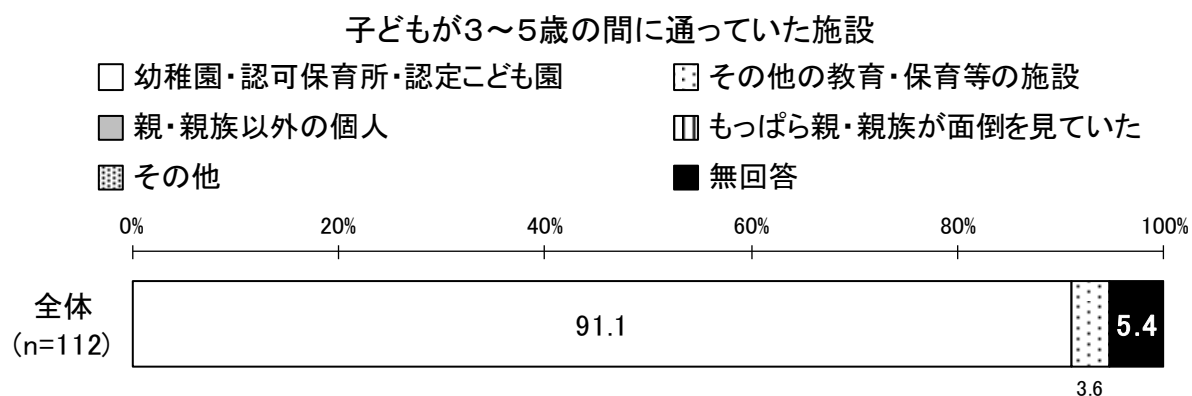
子どもが0～2歳の間に通っていた施設については、全体では「認可保育所・認定こども園」の割合が69.6%で最も高く、次いで「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」（16.1%）、「その他の教育・保育等の施設」（5.4%）などの順となっています。



(2) 子どもが3～5歳の間に通っていた施設

問11 お子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

子どもが3～5歳の間に通っていた施設については、全体では「幼稚園・認可保育所・認定こども園」の割合が91.1%で最も高く、次いで「その他の教育・保育等の施設」（3.6%）の順となっています。

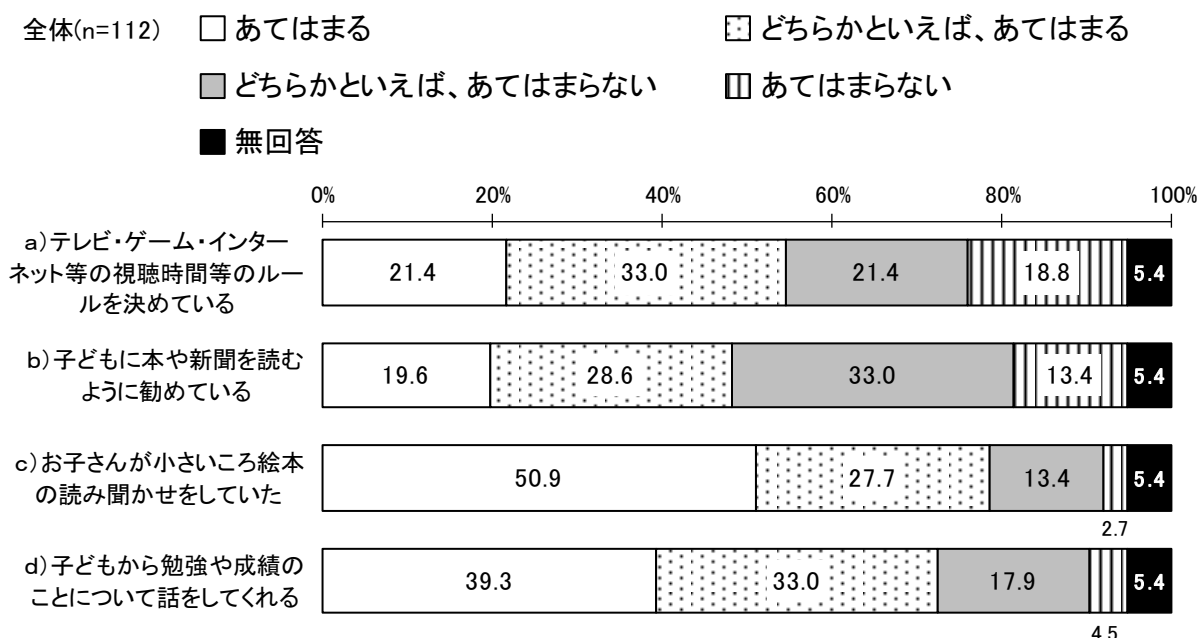


(3) 子どもとの関わり方

問12 あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。（a～dそれぞれについて、あてはまるもの1つに○）

子どもとの関わり方について、“あてはまる”（「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」の合計）の割合が最も高い項目は『c) お子さんが小さいころ絵本の読み聞かせをしていた』（78.6%）で、8割弱のご家庭で絵本の読み聞かせをしています。次いで『d) 子どもから勉強や成績のことについて話をしてくれる』（72.3%）、『a) テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている』（54.4%）などの順となっています。一方、“あてはまらない”（「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」の合計）の割合は『b) 子どもに本や新聞を読むように勧めている』（46.4%）が最も高く、次いで『a) テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている』（40.2%）、『d) 子どもから勉強や成績のことについて話をしてくれる』（22.4%）などの順となっています。

子どもとの関わり方



(4) 行事や活動への参加頻度

問13 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。（a、bそれぞれについて、あてはまるもの1つに○）※新型コロナウイルス感染症拡大後（2020年2月以降）、学校行事などが休止している場合は、それ以前の状況をお答えください。

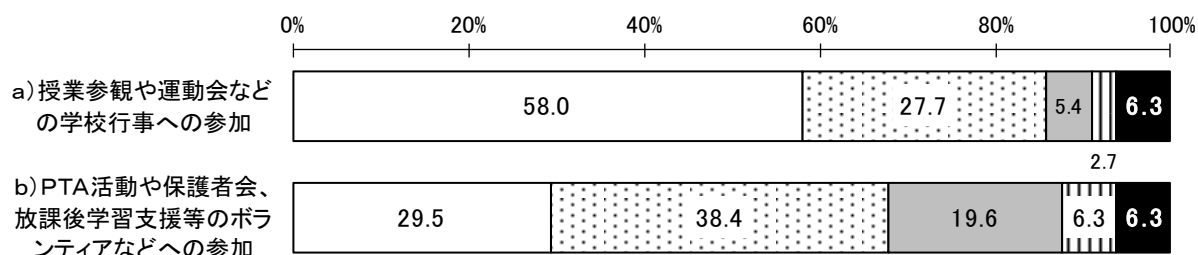
行事や活動への参加頻度については、『a) 授業参観や運動会などの学校行事への参加』では「よく参加している」の割合が58.0%で最も高く、次いで「ときどき参加している」（27.7%）が続き、これらを合わせた“参加している”の割合は85.7%となっています。一方、“参加していない”（「あまり参加していない」5.4%と「まったく参加していない」2.7%の合計）の割合は14.3%となっています。

『b) PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加』では「ときどき参加している」の割合が38.4%で最も高く、次いで「よく参加している」（29.5%）が続き、これらを合わせた“参加している”の割合は67.9%となっています。一方、“参加していない”（「あまり参加していない」19.6%と「まったく参加していない」6.3%の合計）の割合は32.1%となっています。

行事や活動への参加頻度

全体(n=112) □ よく参加している □ ときどき参加している ■ あまり参加していない

▨ まったく参加していない ■ 無回答



5 子どもの将来の進学について

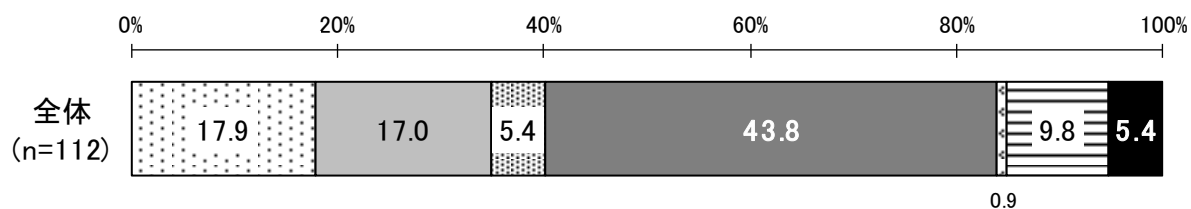
(1) 子どもの現実的な進学先

問14 お子さんは将来、現実的に見てどの学校に進学すると思いますか。（あてはまるもの1つに○）※高校には、特別支援学校高等部も含みます。

子どもの現実的な進学先については、全体では「高校（または5年制の高等専門学校）、大学」の割合が43.8%で最も高く、次いで「高校」（17.9%）、「高校、専門学校」（17.0%）などの順となっています。

子どもの現実的な進学先

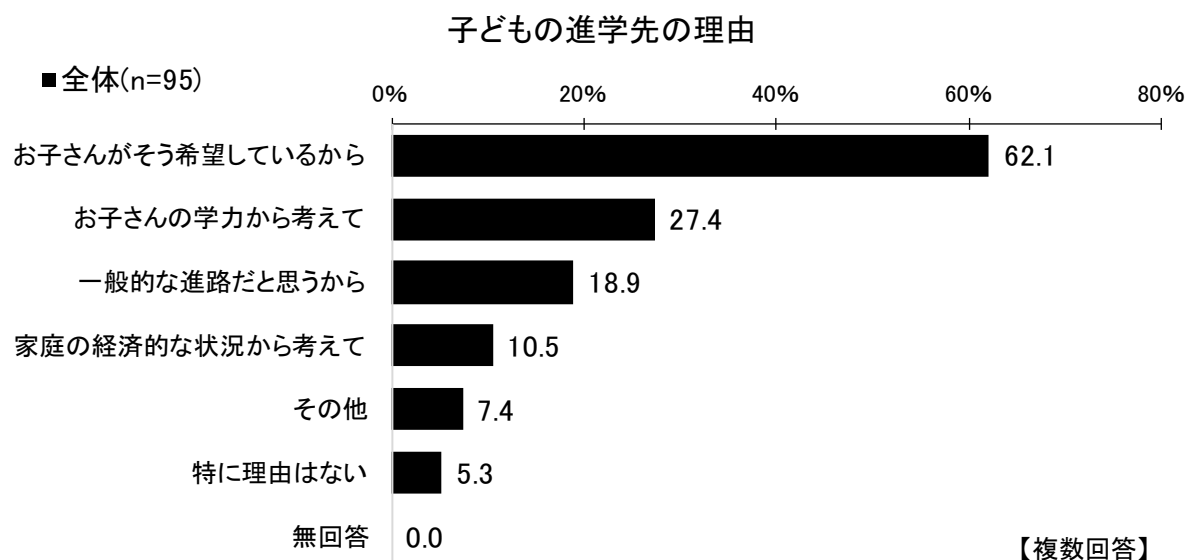
- ☐ 中学まで(進学しない)
- ☐ 高校
- ☐ 高校、専門学校
- ☐ 5年制の高等専門学校
- ☐ 高校、短大
- ☐ 高校(または5年制の高等専門学校)、大学
- ☐ 高校(または5年制の高等専門学校)、大学、大学院
- ☐ その他
- ☐ まだわからない
- ☐ 無回答



(2) 子どもの進学先の理由

問14で「まだわからない」以外を答えた人にお聞きします。
問14-1 その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

子どもの進学先の理由については、全体では「お子さんがそう希望しているから」の割合が62.1%で最も高く、次いで「お子さんの学力から考えて」（27.4%）、「一般的な進路だと思うから」（18.9%）などの順となっています。



6 頼れる相手について

(1) 頼れる相手はいるか

問15 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。(a～cそれぞれについて、あてはまるもの1つに○) また、「頼れる人がいる」場合、それはだれですか。(あてはまるものすべてに○)

頼れる相手はいるかについては、『a) 子育てに関する相談』では「頼れる人がいる」の割合が69.6%で最も高く、次いで「いない」(14.3%)、「そのことでは人に頼らない」(10.7%)の順となっています。

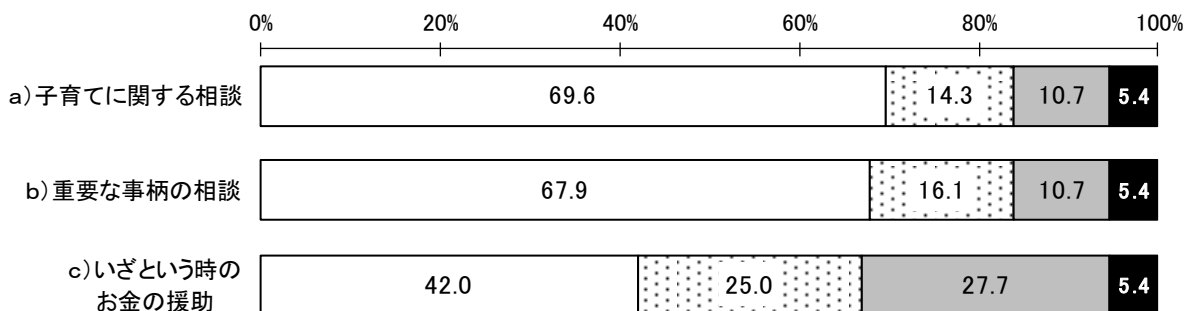
『b) 重要な事柄の相談』では「頼れる人がいる」の割合が67.9%で最も高く、次いで「いない」(16.1%)、「そのことでは人に頼らない」(10.7%)の順となっています。

『c) いざという時の金銭の援助』では「頼れる人がいる」の割合が42.0%で最も高く、次いで「そのことでは人に頼らない」(27.7%)、「いない」(25.0%)の順となっています。

頼れる相手はいるか

全体(n=112)

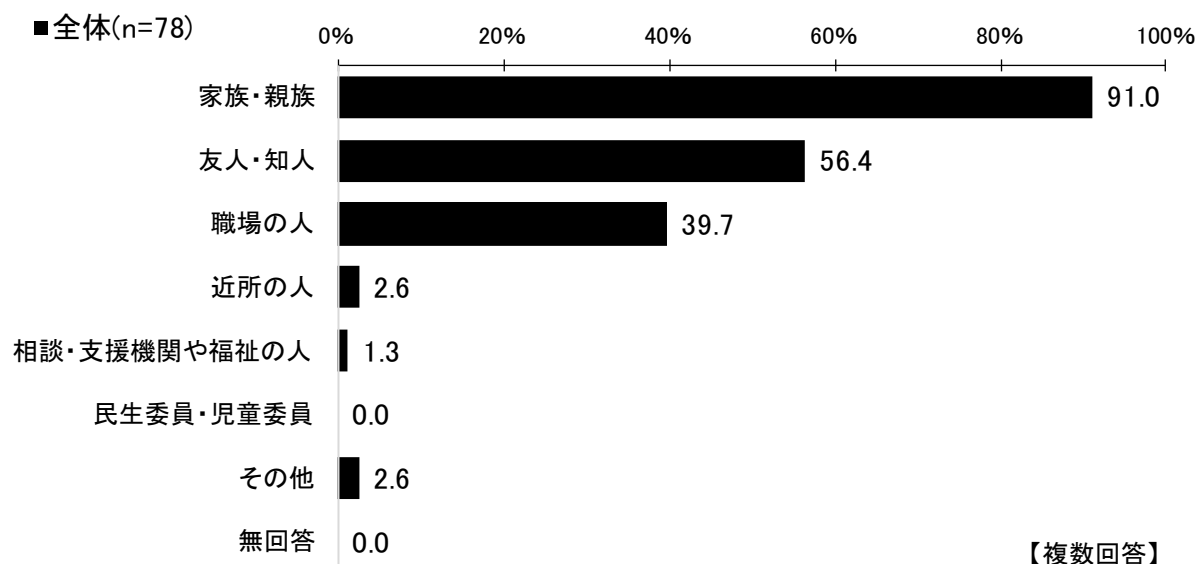
□ 頼れる人がいる ■ いない ■ そのことでは人に頼らない ■ 無回答



a) 子育てに関する相談相手

子育てに関する相談相手については、全体では「家族・親族」の割合が91.0%で最も高く、次いで「友人・知人」（56.4%）、「職場の人」（39.7%）などの順となっています。

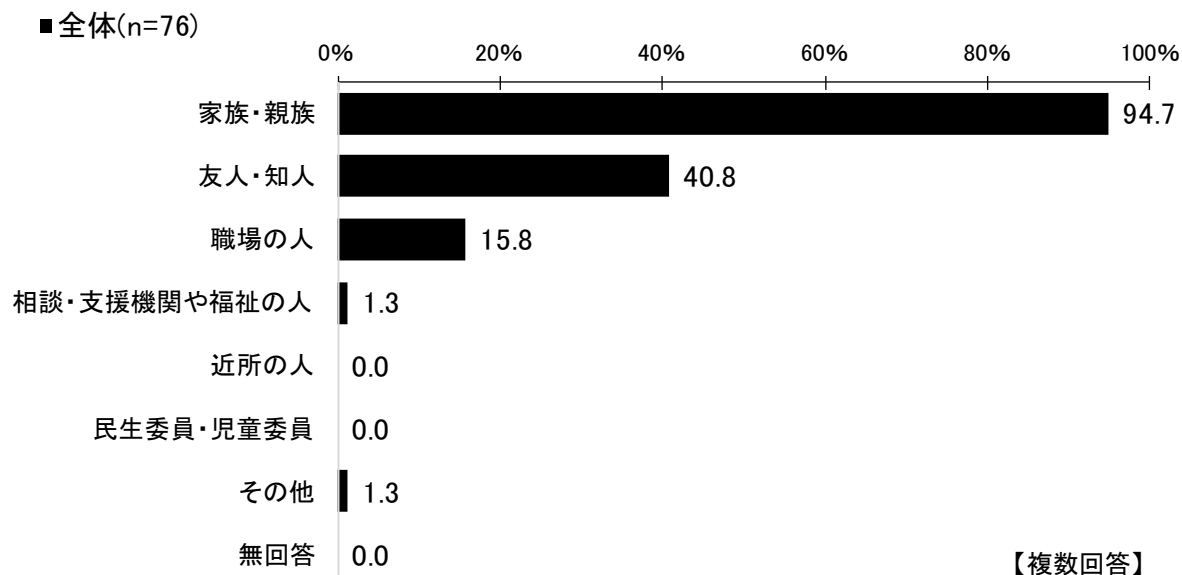
子育てに関する相談相手



b) 重要な事柄の相談相手

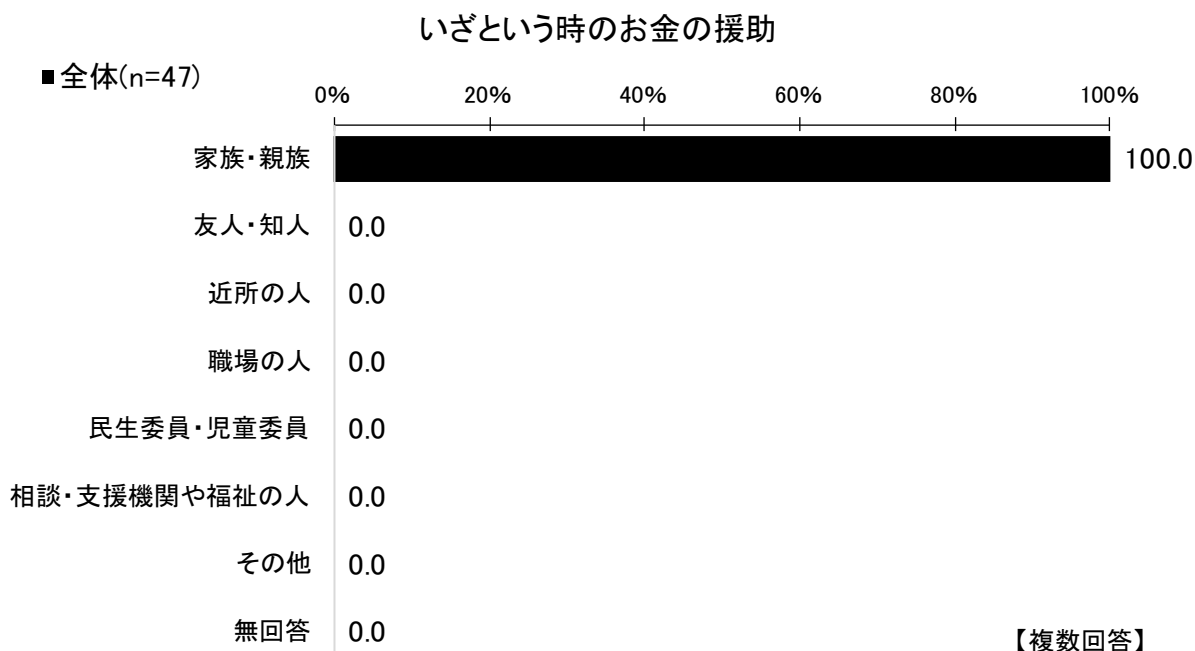
重要な事柄の相談相手については、全体では「家族・親族」の割合が94.7%で最も高く、次いで「友人・知人」（40.8%）、「職場の人」（15.8%）などの順となっています。

重要な事柄の相談相手



c) いざという時のお金の援助

いざという時のお金の援助については、全体では「家族・親族」の割合が100.0%で、それ以外の回答はなしとなっています。

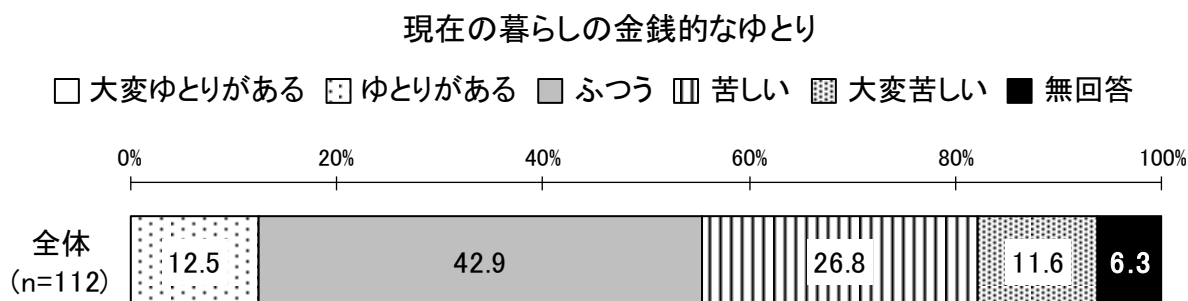


7 現在の暮らしの金銭的状况について

(1) 現在の暮らしの金銭的なゆとり

問16 あなたは、現在の暮らしの状況（金銭的に）をどのように感じていますか。（あてはまるもの1つに○）

現在の暮らしの金銭的なゆとりについては、全体では「ふつう」の割合が42.9%で最も高く、次いで「苦しい」（26.8%）が続き、これに「大変苦しい」（11.6%）を合わせた“苦しい”の割合が38.4%となっています。一方、“ゆとりがある”（「大変ゆとりがある」0.0%と「ゆとりがある」12.5%の合計）の割合が12.5%となっています。



(2) 世帯全体のおおよその年間収入

問17 世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。(あてはまるもの1つに○)

※令和5年の年間収入についてお答えください。

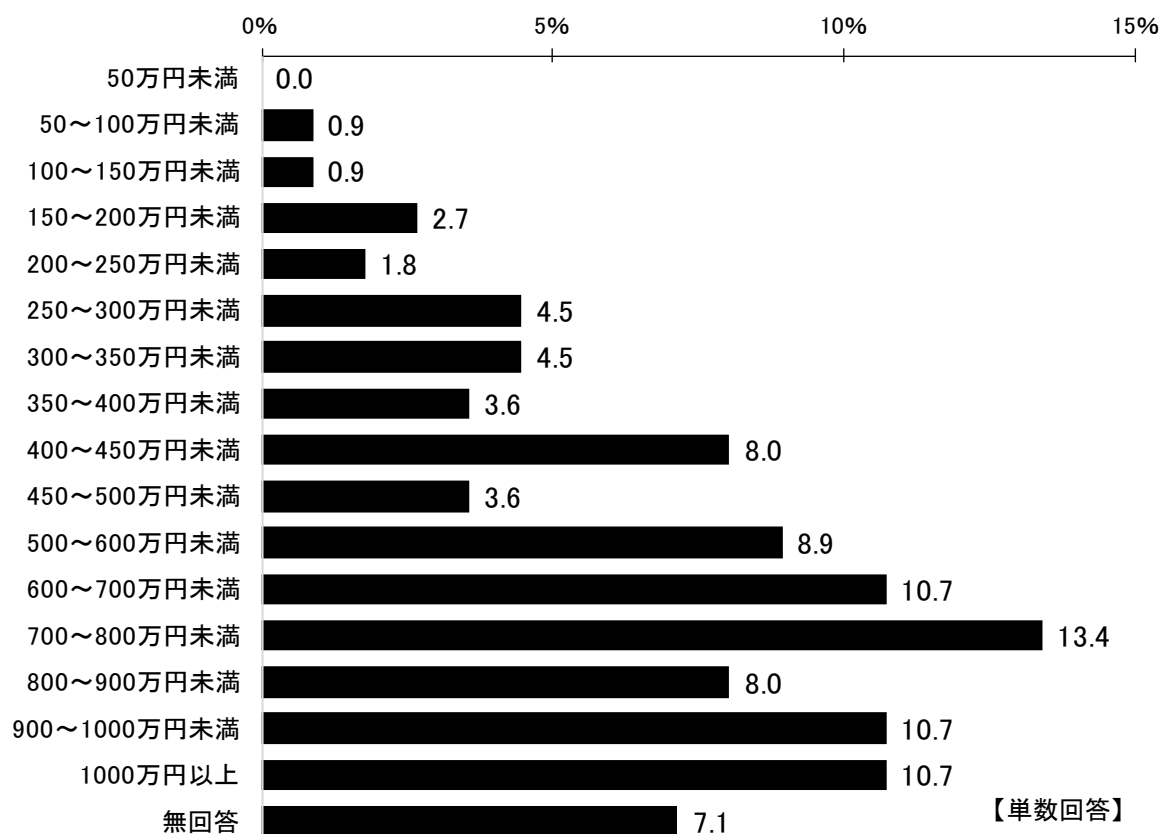
※収入には、同居し、生計を同一にしている家族全員の以下の収入が含まれます。

- ・勤め先収入(定期収入、賞与等)
- ・事業収入(原材料費、人件費、営業上の諸経費等を除く)、内職収入(材料費等を除く)
- ・公的年金・恩給、その他の社会保障給付金(生活保護、児童手当、児童扶養手当等)
- ・農林漁業収入(農機具等の材料費、営業上の諸経費等を除く)
- ・資産収入(預貯金利子、家賃収入等。家・土地などの資産売却代金や生命保険・損害保険からの受取金等は除く。)
- ・その他の収入(仕送り、養育費、個人年金、各種祝い金等)

世帯全体のおおよその年間収入については、全体では「700～800万円未満」の割合が13.4%で最も高く、次いで「600～700万円未満」「900～1000万円未満」「1000万円以上」(同率10.7%)、「500～600万円未満」(8.9%)などの順となっています。

世帯全体のおおよその年間収入

■全体(n=112)



本調査では、令和5年度の世帯年収（税込み）と世帯員人数の回答結果から、簡易的に等価可処分所得による分類を行いました。

【等価可処分所得とは】

世帯の可処分所得（働いて得た手取り収入の他、公的な援助手当、養育費、株式配当や副収入を含んだ収入）をもとに世帯員の生活水準を表すよう調整した所得になります。

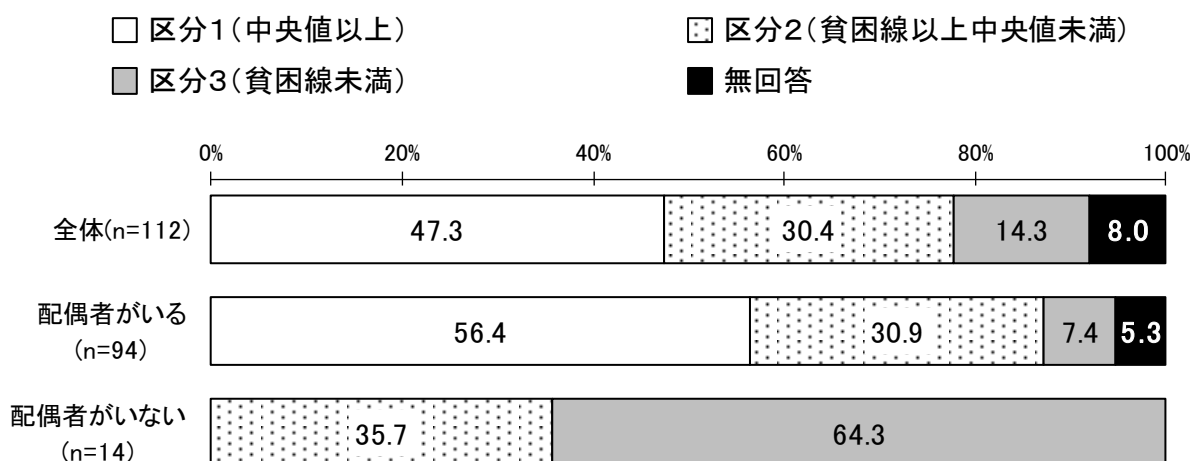
【算出方法】

- 【1】 年収を尋ねる設問の各選択肢の上限値と下限値の中央値を、その世帯の収入の値とします。《例：年収300～350万円未満では325万円（なお、1,000万円以上は1,000万円）》
- 【2】 【1】の値を世帯人員の人数の平方根で除します（等価可処分所得）。
- 【3】 【2】で算出した金額を低い順に並べ、所得中央値の50%を「貧困線」として、中央値以上を区分1、貧困線以上中央値未満を区分2、貧困線未満を区分3として分類しました。

等価可処分所得による分類について、全体では「区分1（中央値以上）」の割合が47.3%で最も高く、次いで「区分2（貧困線以上中央値未満）」（30.4%）、「区分3（貧困線未満）」（14.3%）の順となっています。

配偶者の有無別でみると、配偶者のいない『ひとり親家庭』では「区分3（貧困線未満）」の割合が64.3%で、配偶者がいる家庭（7.4%）を大きく上回ります。

等価可処分所得による分類／配偶者の有無別



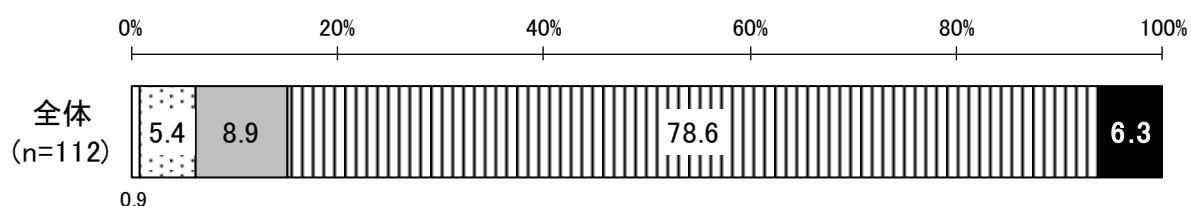
(3) 過去1年間金銭的理由で必要な食料が買えないことがあったか

問18 あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。（あてはまるもの1つに○）

過去1年間金銭的理由で必要な食料が買えないことがあったかについては、全体では「まったくなかった」の割合が78.6%で最も高く、次いで「まれにあった」（8.9%）、「ときどきあった」（5.4%）、「よくあった」（0.9%）の順となっています。

過去1年間金銭的理由で必要な食料が買えないことがあったか

☐ よくあった ☒ ときどきあった ☐ まれにあった ☒ まったくなかった ☐ 無回答



現在の暮らしの金銭的なゆとり別にみると、『大変苦しい』では「まれにあった」の割合が最も高くなっています。

過去1年間金銭的理由で必要な食料が買えないことがあったか／現在の暮らしの金銭的なゆとり別

			(上段：n、下段：%)				
		対象者 (n)	よくあつ た	ときどき あつた	まれに あつた	まったく なかった	無回答
全体		112	1 0.9	6 5.4	10 8.9	88 78.6	7 6.3
現在の暮らしの金銭的なゆとり	大変ゆとりがある	0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	ゆとりがある	14	0 0.0	0 0.0	0 0.0	14 100.0	0 0.0
	ふつう	48	0 0.0	0 0.0	3 6.3	45 93.8	0 0.0
	苦しい	30	0 0.0	2 6.7	2 6.7	26 86.7	0 0.0
	大変苦しい	13	1 7.7	4 30.8	5 38.5	3 23.1	0 0.0

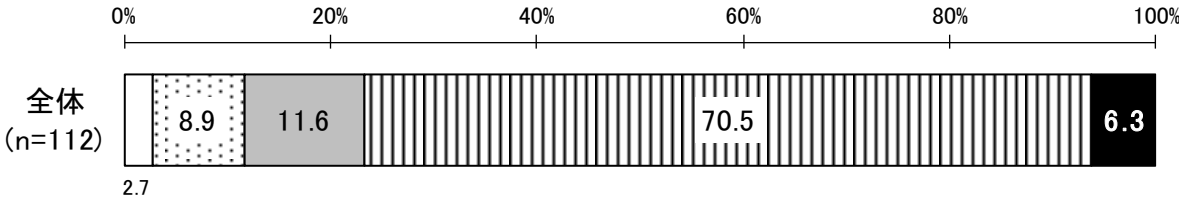
(4) 過去1年間金銭的理由で必要な衣服が買えないことがあったか

問19 あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。(あてはまるもの1つに○)

過去1年間金銭的理由で必要な衣服が買えないことがあったかについては、全体では「まったくなかった」の割合が70.5%で最も高く、次いで「まれにあった」(11.6%)、「ときどきあった」(8.9%)、「よくあった」(2.7%)の順となっています。

過去1年間金銭的理由で必要な衣服が買えないことがあったか

□ よくあった ▨ ときどきあった ■ まれにあった ▤ まったくなかった ■ 無回答



現在の暮らしの金銭的なゆとり別にみると、『大変苦しい』では「ときどきあった」の割合が最も高くなっています。

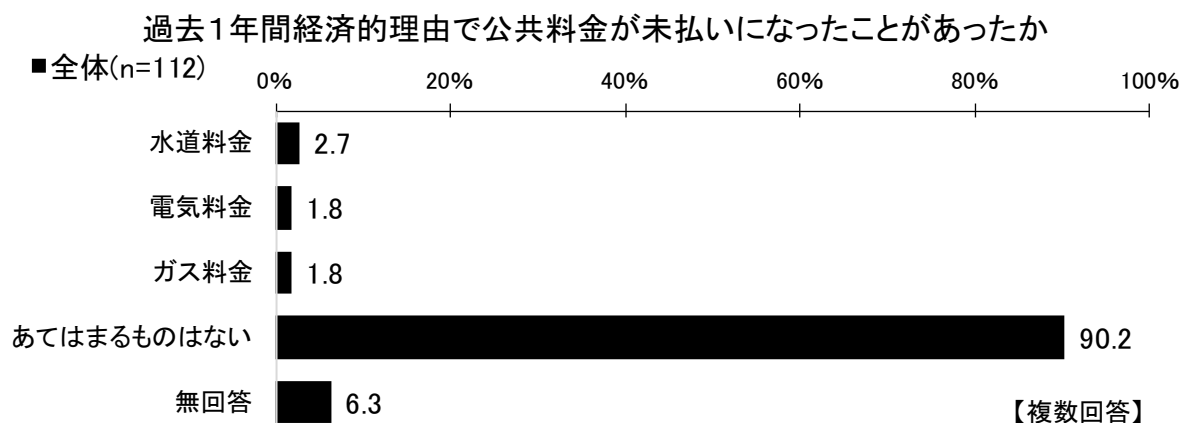
過去1年間金銭的理由で必要な衣服が買えないことがあったか／現在の暮らしの金銭的なゆとり別

			(上段：n、下段：%)				
		対象者 (n)	よくあ った	ときど きあ った	まれに あった	まったく なかった	無回答
全体		112	3 2.7	10 8.9	13 11.6	79 70.5	7 6.3
現在の暮らしの金銭的なゆとり	大変ゆとりがある	0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	ゆとりがある	14	0 0.0	0 0.0	0 0.0	14 100.0	0 0.0
	ふつう	48	0 0.0	0 0.0	5 10.4	43 89.6	0 0.0
	苦しい	30	0 0.0	5 16.7	6 20.0	19 63.3	0 0.0
	大変苦しい	13	3 23.1	5 38.5	2 15.4	3 23.1	0 0.0

(5) 過去1年間経済的理由で公共料金が未払いになったことがあったか

問20 あなたの世帯では、過去1年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありましたか。（あてはまるものすべてに○）

過去1年間経済的理由で公共料金が未払いになったことがあったかについては、全体では「水道料金」の割合が2.7%で、「電気料金」「ガス料金」は同率1.8%となっています。



8 最近の生活について

(1) 過去1か月間の気持ち

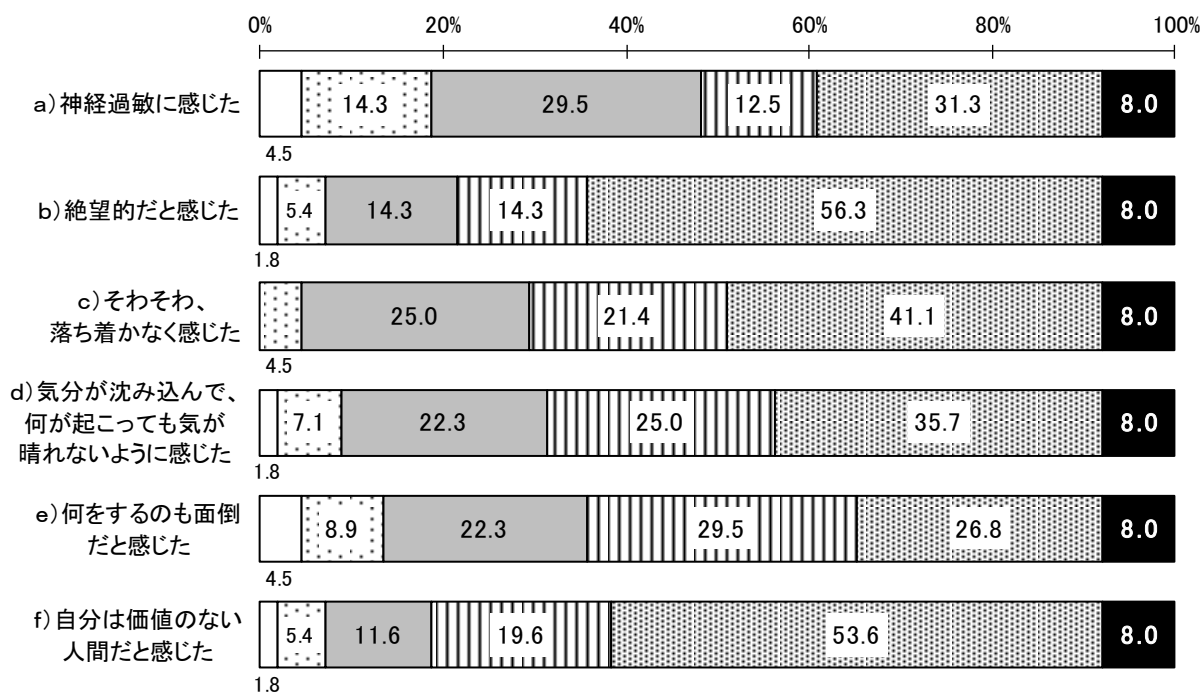
問21 次のa～fの質問について、この1か月間のあなたの気持ちはどのようなでしたか。(a～fそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

過去1か月間の気持ちについて、“感じたことがある”(「いつも」「たいてい」「ときどき」「少しだけ」の合計)の割合で最も高い項目は『e) 何をするのも面倒だと感じた』(65.2%)で、次いで『a) 神経過敏に感じた』(60.8%)、『d) 気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた』(56.2%)などの順となっています。一方、「まったくくない」の割合は『b) 絶望的だと感じた』(56.3%)が最も高く、次いで『f) 自分は価値のない人間だと感じた』(53.6%)、『c) そわそわ、落ち着かなく感じた』(41.1%)などの順となっています。

過去1か月間の気持ち

全体(n=112)

□ いつも □ たいてい □ ときどき □ 少しだけ □ まったくなくない ■ 無回答

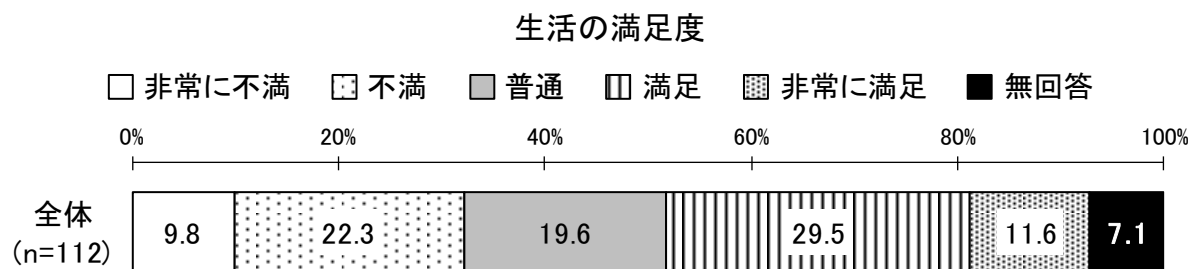


(2) 生活の満足度

問22 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」（まったく満足していないから「10」（十分に満足している）の数字で教えてください。（あてはまるもの1つに○）

0～2を「非常に不満」、3～4を「不満」、5～6を「普通」、7～8を「満足」、9～10を「非常に満足」として集計しました。

全体では「満足」の割合が29.5%で最も高く、これに「非常に満足」（11.6%）を合わせた“満足”の割合は41.1%となっています。一方、“不満”（「非常に不満」9.8%と「不満」22.3%の合計）の割合は32.1%となっています。なお、「普通」は19.6%でした。



(3) 新型コロナウイルス感染症の拡大による休校前と現在での変化

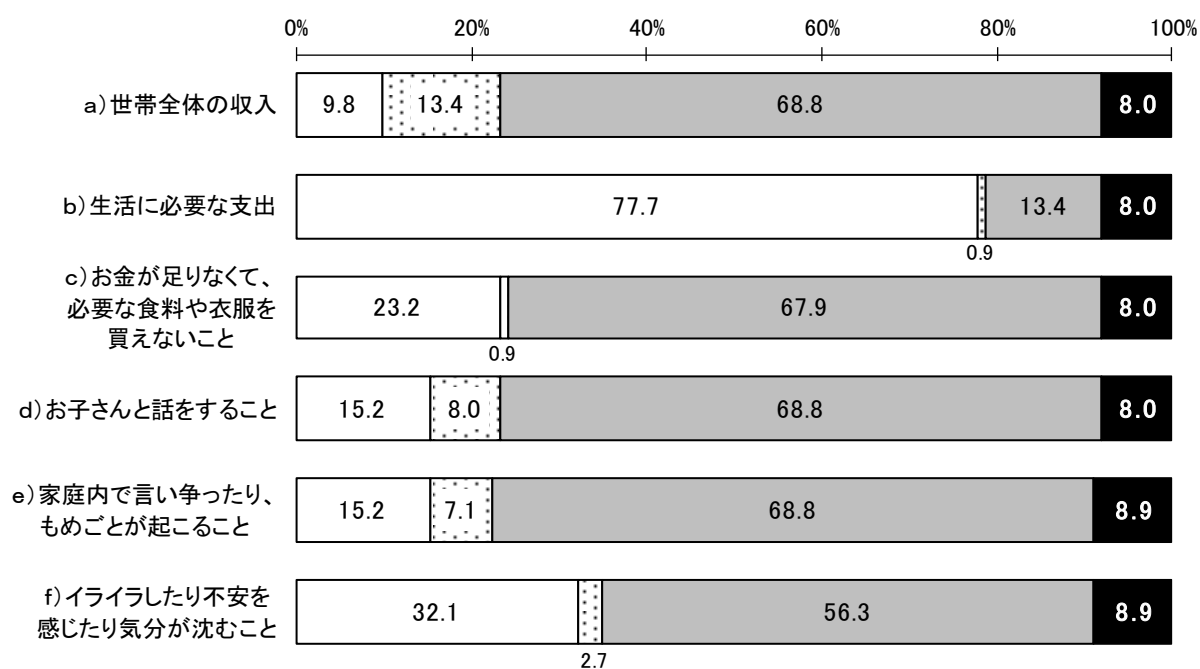
問23 あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校等する前（2020年2月以前）から比べて、どのように変わりましたか。（a～fそれぞれについて、あてはまるもの1つに○）

新型コロナウイルス感染症の拡大による休校前と現在での変化について、「増えた」の割合が最も高い項目は『b)生活に必要な支出』（77.7%）で、7割以上を占めています。次いで『f)イライラしたり不安を感じたり気分が沈むこと』（32.1%）、『c)お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと』（23.2%）などの順となっています。一方、「減った」の割合は『a)世帯全体の収入』（13.4%）が最も高く、次いで『d)お子さんと話をすること』（8.0%）、『e)家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること』（7.1%）などの順となっています。新型コロナウイルス感染症の拡大による休校前に比べて、現在は生活に必要な支出が増えて、世帯全体の収入が減少しているという結果になっています。

新型コロナウイルス感染症の拡大による休校前と現在での変化

全体(n=112)

□ 増えた ▨ 減った ■ 変わらない ■ 無回答



9 支援制度について

(1) 支援制度の利用状況

問24 あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。（a～eそれぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○）

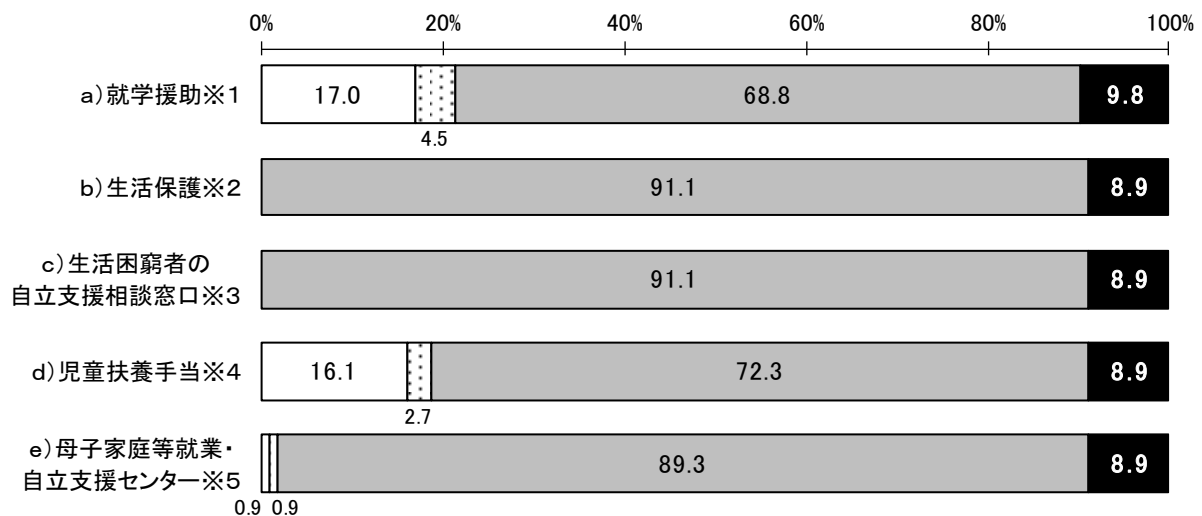
①支援制度の利用状況

支援制度の利用状況について、“利用したことがある”（「現在利用している」と「現在利用していないが、以前利用したことがある」の合計）の割合が最も高い項目は『a) 就学援助』（21.5%）で、次いで『d) 児童扶養手当』（18.8%）、『e) 母子家庭等就業・自立支援センター』（1.8%）の順となっています。一方、「利用したことがない」の割合は『b) 生活保護』『c) 生活困窮者の自立支援相談窓口』（同率91.1%）が最も高く、次いで『e) 母子家庭等就業・自立支援センター』（89.3%）、『d) 児童扶養手当』（72.3%）などの順となっています。

支援制度の利用状況

全体(n=112)

- ☐ 現在利用している
- ☒ 現在利用していないが、以前利用したことがある
- ☐ 利用したことがない
- ☐ 無回答



※1 就学援助：経済的理由により子どもの就学が困難な場合に、学用品費等を補助する制度。

※2 生活保護：病気や失業などにより生活費等に困り、他に方法がないときに一定の援助が受けられる制度。

※3 生活困窮者の自立支援相談窓口：お金、仕事、住宅など、様々な課題を抱えた生活に困窮する方のための相談窓口。専門の支援員が具体的な支援プランを作成し、課題の解決に向けた支援を行う。

※4 児童扶養手当：所得が一定水準以下のひとり親世帯の生活支援のための手当。（児童手当とは異なります。）

※5 母子家庭等就業・自立支援センター：ひとり親の方が、仕事探しに関する相談や講習を受けられる支援センター。養育費の取り決めなどに関する相談も受けられる。

②支援制度を利用したことがない理由

支援制度を利用したことがない理由について、すべての項目で「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」の割合が8割以上を占めています。

支援制度を利用したことがない理由

- ☐ 制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから
- ☐ 利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから
- ☐ 利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから
- ☐ 利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから
- ☐ それ以外の理由
- ☐ 無回答



Ⅳ. 自由回答

1 中学2年生

(1) 益田市へ伝えたいこと

問25 益田市へ伝えたいことがありましたらご記入ください。

益田市へ伝えたいことについての回答件数は、21件となっています。具体的な回答内容を整理すると、次のようになっています。

回答内容分類	回答件数
まちづくりについて	3
遊び場について	3
商業施設について	2
道路の整備について	2
その他	11
合計	21

各分類の回答内容は下記のとおりです。

まちづくりについて
明るいまちにして、安心な日々、楽しい日々をつくって、たくさんのふれあい行事、環境行事を行なえる益田市にして欲しい
益田市に残りたい、益田市に来たいと思える魅力のあるまちにして欲しい
授業で「将来益田市で暮らすのか？」と聞かれた時、クラスで4人しか手を挙げなかった。これからどんどん人口が減って行くと思ったので、もっと住みたいまちになると良い

遊び場について
バスケやトランポリンやテニスなどができるような、誰でも気軽に遊べるすごく大きな室内の体操場をつくって人をたくさん呼び込んで欲しい
遊び場が少ない
お金と人が集められるなら1日遊べる建物をつくって欲しい。遊ぶ場所に飽きてきた

商業施設について
大きいお店をもっとつくって欲しい
本屋が無くならないようにして欲しい

道路の整備について
街灯増やして都会にして欲しい
街灯が少なく夜危ないから、細い道にも街灯を置いて欲しい。カーブミラーがなくて危ない場所があるからなんとかして欲しい

その他
市民がL G B T Q +について理解する機会を増やして欲しい
スポーツの指導者をもっと増やして欲しい
車椅子生活なので、バリアフリーをもっと進めて欲しい
学校がとても古いので新しくして欲しい。特にトイレだけでもきれいにして欲しい
交通の便を良くして欲しい
計画を立てたら必ず実行して欲しい
イラストが好きな集まりやイラストを教えてくれる場所が欲しい
将来の職業の選択肢を増やして欲しい
もっと親の給料が上がって欲しい
もっと小学校や中学校で地域住民と面と向かって対話をして、地域の現状や課題、若い人の考えに耳を傾けて欲しい
がんばって欲しい

2 中学2年生保護者

(1) 子育て環境や支援に関してのご意見

問25 お住まいの地域の教育環境等の充実など、子育て環境や支援に関して、ご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

子育て環境や支援に関してのご意見についての回答件数は、24件となっています。具体的な回答内容を整理すると、次のようになっています。

回答内容分類	回答件数
金銭的なサポートについて	11
子どもの教育について	3
不登校の生徒への支援について	3
子育て支援について	2
その他	5
合計	24

各分類の回答内容は下記のとおりです。

金銭的なサポートについて
高校無償化の所得制限をなくして欲しい。塾代の金銭的支援をして欲しい
物価高騰をどうにかして欲しい
収入を考えると生活に不安しかない
制服や体操服等の学用品を無償にして欲しい
学校給食費の無償化をして欲しい。学校統合の際には1クラスの生徒数を30人以下に改善し、手厚く教育を受けることが出来る環境を整えて欲しい
金銭的なサポートが欲しい
多子世帯に対してもっと手厚い補助をして欲しい
子どもの医療費を大学生まで無償にして欲しい
子どもの医療費と学校給食の無償化
子どもが大学に進学しても金銭的な援助を受けられるようにして欲しい
教育費用の援助が欲しい

子どもの教育について
市内と地方で教育環境に差を感じるので、平等にして欲しい
学ぶ場所の多様化の促進をして欲しい
部活の地域移行も含め、子どもの教育において県の東部や都会との地域格差を感じるので平等にして欲しい

不登校の生徒への支援について
学校に行けない子どもへの支援体制を強化して欲しい。人材育成や学べる仕組みを充実させて欲しい
不登校生徒や家庭へのサポートを充実させて欲しい
学校に通えない子どもたちの居場所を市の運営で用意して欲しい

子育て支援について
母子家庭ばかり優遇せずに中間層の子育て世帯にも支援をして欲しい
益田市だからこそ出来る子育て支援に関する政策が欲しい。例えば児童手当を増額するなど、子育てを応援する政策

その他
社会人スポーツチームの指導者の素行を注意して欲しい
子どもの中学校卒業後の進路の選択肢が少ない。高校を増やして欲しい。高校進学後の通学方法に悩んでいる
このアンケートの前振りが長すぎる。もっと気軽に答えられるようにしないと誰も答えてくれないと思う
益田市には他の市町村がどのようなことをしているのかを勉強して欲しい
支援制度が分かりにくく、知らないことを知る手段も分かりにくい

V. 調査結果からみた課題

(1) 子どもの勉強と進学について

中学2年生に対して学校の授業がわからないことがあるか尋ねたところ、「教科によってはわからないことがある」の割合が46.1%で、“わからない”の割合も10.5%となっており、半数以上の生徒が授業で何かしらわからないことがあると回答しています。（中学2年生：問5）

いつごろから授業がわからないことがあるかについては、「中学2年生になってから」の割合が39.5%、「中学1年生のころ」が34.9%で、7割以上が中学生になってから授業でわからないことが出てきたと回答しています。（中学2年生：問5-1）

将来の進学については、「高校（または5年制の高等専門学校）、大学」の割合が42.1%で、4割以上が大学進学までを希望しています。クラスの中での成績別でみると、まん中より上の成績の人は「高校（または5年制の高等専門学校）、大学」の割合が高く、まん中より下の人は「高校」の割合が高くなっています。（中学2年生：問6）

将来の進学をそう考える理由について将来の進学先別にみると、ほとんどの進学先で「希望する学校や職業があるから」の割合が高い一方、『高校』では「とくに理由はない」の割合も高くなっています。（中学2年生：問6-1）

保護者に対して子どもの現実的な進学先について尋ねたところ、「高校（または5年制の高等専門学校）、大学」の割合が43.8%で最も高く、中学2年生の回答と同様の結果となりました。（保護者：問14）

子どもの進学先の理由については、「お子さんがそう希望しているから」の割合が62.1%で最も高く、6割以上の保護者が子どもの意志を最優先していることが伺えます。一方、「お子さんの学力から考えて」（27.4%）、「一般的な進路だと思うから」（18.9%）、「家庭の経済的な状況から考えて」（10.5%）など、子どもの学力や周囲の状況も踏まえた上で、子どもの進路を考えている保護者の方もいます。（保護者：問14-1）

(2) 子どもの食事と睡眠状況について

中学2年生の1週間の食事の頻度については、朝食、夕食、夏休みや冬休みなどの期間の昼食すべてにおいて、「毎日食べる（週7日）」と回答した割合が8割以上を占めています。（中学2年生：問8）

平日（月～金）ほぼ同じ時間に寝ているかについては、“ほぼ同じ時間に寝ている”の割合が85.5%で、8割以上が平日ほぼ同じ時間に寝ていると回答しています。（中学2年生：問9）

保護者に対して子どもとの関わり方で、テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めているかについて尋ねたところ、ルールを決めている（“あてはまる”）と回答した割合は54.4%で、半数以上を占めています。（保護者：問12）

(3) 子どもの悩みごとや相談先について

中学2年生の悩みごとの相談相手については、「親」の割合が64.5%で最も高く、6割以上が親に相談すると回答しています。次いで「学校の友達」（56.6%）、「学校の先生」（27.6%）などの順となっており、友達や学校の先生など、日常顔を合わせて話す機会の多い

人たちに相談する人が多くみられます。一方、「誰にも相談できない、相談したくない」と回答した人は5.3%となっています。（中学2年生：問11）

家庭や学校以外で悩みを相談できる場所があることを知っているかについては、「知っている」の割合が51.3%、「知らない」の割合が36.8%で、知っている割合が知らない割合を上回るものの、3割以上の人は家庭や学校以外で悩みごとを相談できる場所があることを知らないという結果になりました。（中学2年生：問12）

「児童の権利条約」を知っているかについては、「知らない」の割合が63.2%で6割以上を占めています。（中学2年生：問22）

「こども基本法」を知っているかについては、「知らない」の割合が64.5%で6割以上を占めています。（中学2年生：問23）

保護者に対して子どもとの関わり方で、勉強や成績のことについて子どもから話をしてくれるかを尋ねたところ、話をしてくれる（“あてはまる”）と回答した割合は72.3%で7割以上を占めています。（保護者：問12）

（４）子どもの最近の生活について

中学2年生に対して生活の満足度について尋ねたところ、“満足”の割合は57.9%で半数以上を占めています。一方、“不満”の割合は15.7%となっています。（中学2年生：問13）

ここ半年くらいの自分のことについては、『仲の良い友だちが少なくとも一人いる』『年下の子どもたちに対してやさしくしている』『他人に対して親切にしたり他人の気持ちをよく考える』『誰かが嫌な思いをしているときなどすすんで助ける』などを肯定する割合が7割以上を占めており、周囲に対して思いやりをもって接することができたとする人が多くなっています。一方、『他の子どもからいじめられたりからかわれたりする』『いつも一人で遊ぶか人と付き合うことを避ける』『他の子どもたちより大人という方がうまくいく』などでは「あてはまらない」と回答した人が半数以上を占めています。（中学2年生：問14）

新型コロナウイルス感染症の拡大による休校前と現在での変化については、『夜遅くまで起きている回数』『親以外の大人や友達と話をすること』で「増えた」と回答している人の割合が4割以上を占めています。一方、『地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数』『友だちと遊ぶこと』では「減った」の割合が約2割を占めています。（中学2年生：問15）

保護者に対して生活の満足度について尋ねたところ、“満足”の割合は41.1%となっています。一方、“不満”の割合は32.1%となっています。（保護者：問22）

過去1か月間の気持ちについては、『何をするのも面倒だと感じた』『神経過敏に感じた』『気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた』などで半数以上が感じたことがあると回答しています。（保護者：問21）

新型コロナウイルス感染症の拡大による休校前と現在での変化については、『生活に必要な支出』で「増えた」と回答している人の割合が7割以上を占める一方、『世帯全体の収入』が「減った」と回答した人の割合は13.4%となっています。それ以外では、『イライラしたり不安を感じたり気分が沈むこと』『お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと』などで2割以上が「増えた」と回答しています。新型コロナウイルス感染症の拡大による休校前に比べて、現在は生活に必要な支出が増えて、世帯全体の収入が減少しているという結果になり、それに伴いイライラしたり不安を感じたりして気分が沈むことが増え、家庭内でのめんどろが起るようになったと考えられます。（保護者：問23）

（５）子どもの居場所について

中学２年生に対して家族との関係について尋ねたところ、「一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされることがよくある」「両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある」の割合が同率2.6%で、「一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げつけられるといったことがよくある。または、けがをするほど強くなぐられたことが一度でもある」「家族のだれからも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感じることがある」「一緒に住んでいる家族が、だれかに押されたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある、または、くり返しなぐられたり、刃物などでおどされたことが一度でもある」「一緒に住んでいる人に、うつ病やその他の心の病気の人、または自殺しようとした人がいる」が同率1.3%となっています。なお、「当てはまるものはない」の割合は73.7%となっています。（中学２年生：問16）

自分や友人の家または学校以外の居場所については、『平日の夜や休日を過ごすことができる場所（グラントワ、市立図書館など）』を利用したことがあると回答した人の割合が約４割となっています。『勉強を無料でみってくれる場所』『夕ごはんを無料か安く食べることができる場所（子ども食堂など）』などは、あれば利用したいと思うと回答した人の割合が約２割と、他の場所に比べて高くなっています。（中学２年生：問17）

居場所を利用したことで起きた変化については、「生活の中で楽しみなことが増えた」の割合が20.5%で最も高く、次いで「ほっとできる時間が増えた」（15.4%）、「勉強する時間が増えた」（7.7%）などの順となっています。（中学２年生：問17－１）

回答者の自己肯定感については、『自分の保護者からあいさされていると思う』と回答した人が８割以上を占めており、多くの子どもが親子関係を肯定的にとらえています。それ以外では『うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む』『今の自分が好きだ』なども、６割以上が肯定しています。一方、『自分は役に立たないと強く感じる』では６割以上が否定しており、自分は役に立たないわけではないと感じています。（中学２年生：問18）

自分が「しあわせ」だと思うかについては、７割以上が“自分は幸せだと思う”と回答しています。（中学２年生：問19）

自分にとっての居場所については、『家族（親せきの家を含む）』を居場所だとする人が８割弱に上り、家族との関係性が良好とする人が多い結果となりました。次いで『自分の部屋』（65.8%）、『インターネット空間（SNS、YouTubeやオンラインゲームなど）』（60.5%）などの順となっています。（中学２年生：問20）

自分の将来に明るい希望を持っているかについては、“自分の将来に明るい希望を持っている”と回答した人は６割以上となっています。（中学２年生：問21）

（６）現在の暮らしの経済的状況について

現在の暮らしの金銭的なゆとりについては、“苦しい”と回答した割合が38.4%となっています。一方、“ゆとりがある”は12.5%となっています。（保護者：問16）

世帯全体のおおよその年間収入について、等価可処分所得による分類でみると、「区分１（中央値以上）」の割合が47.3%、「区分２（貧困線以上中央値未満）」が30.4%、「区分３（貧困線未満）」が14.3%となっています。配偶者の有無別でみると、配偶者のいない『ひとり親家庭』では「区分３（貧困線未満）」の割合が64.3%で、配偶者がいる家庭（7.4%）を大きく上回ります。（保護者：問17）

過去１年間金銭的理由で必要な食料が買えないことがあったかについては、「まれにあった」が8.9%、「ときどきあった」が5.4%、「よくあった」が0.9%となっています。現在の暮らしの金銭的なゆとり別にみると、『大変苦しい』では「まれにあった」の割合が最も高くなっています。（保護者：問18）

過去１年間金銭的理由で必要な衣服が買えないことがあったかについては、「まれにあった」が11.6%、「ときどきあった」が8.9%、「よくあった」が2.7%となっています。現在の

暮らしの金銭的なゆとり別にみると、『大変苦しい』では「ときどきあった」の割合が最も高くなっています。（保護者：問19）

子育て環境や支援に関してのご意見については、金銭的なサポートを望む声が11件ありました。（保護者：問25）

（７）益田市へ伝えたいことについて

中学２年生に対して益田市に意見を伝えやすい方法について尋ねたところ、「学校を通して伝える」の割合が42.1%で最も高く、次いで「アンケート（紙）に答える」（26.3%）、「LINEなどのチャット」（25.0%）などの結果となりました。

性別でみると、『男子』は『女子』に比べて「対面」「オンライン」「インターネットのフォーム」などの割合が高くなっています。一方、『女子』は『男子』に比べて「Instagramを使って伝える」「アンケート（紙）に答える」「Webアンケートに答える」などの割合が高くなっています。

クラスの中での成績別でみると、ほとんどの項目では「学校を通して伝える」の割合が最も高くなっていますが、『下のほう』では「LINEなどのチャット」の割合が最も高くなっています。（中学２年生：問24）

益田市へ実際に伝えたいことについては、まちづくり、遊び場、商業施設、道路の整備などがありました。（中学２年生：問25）

益田市 子どもの生活状況調査
結果報告書

発行日 令和 6 年 8 月
発 行 益田市 福祉環境部子ども福祉課

〒698-0024 島根県益田市駅前町 17 番 1 号
益田駅前ビル EAGA1 階
TEL : 0856-31-0243